
樹木粉碎機

GS152GH

取扱説明書



警告 本機を取扱う場合は、事前に本取扱説明書を全部読んで十分理解をして機械の運転操作の練習を行い、運転操作に習熟した上で正しく作業を行ってください。各種危険についても、本取扱説明書の注意事項を充分理解してから運転・調整または保守を行ってください。守られなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

読み終わった後は必ず大切に保管し、わからないことがあったときは、取り出して再読してください。なお、エンジン・バッテリーにつきましては、同封の各々の取扱説明書をご熟読ください。もし、説明書が損傷や紛失により読めなくなった場合、販売店より新しい取扱説明書を購入し、常に参照できるように保管してください。

株式会社 大 橋

NO. 14529010102
240318

まえがき

大橋 樹木粉碎機をお買い上げいただき、ありがとうございます。
本機を快適かつ効果的に取扱いいただくためには、毎日の作業点検と定期的な点検整備が大事です。人間でいえば健康診断のようなもの、機械をいつも最良の状態にし、事故や故障を未然に防ぐことが大切です。日頃から義務として、点検を怠らないようにしましょう。

また、ちょっとした故障でも早期発見するよう心がけ、大きな故障にならないように整備してください。機械の調子が悪い時は、無理に使用せず、お買い上げいただいた販売店にお気軽にご連絡ください。その際、『本機型式と機体番号』を合わせてご連絡ください。『本機型式と機体番号』はフレーム後部の銘板に記載しています。

なお、品質・性能向上および、その他の事情で部品の変更を行うことがあります。その際、取扱説明書の内容および写真、イラストなどの一部が本機と一致しない場合がありますので、予めご了承ください。

目 次

危険防止のために	1
ラベルについて	5
本機の使用目的・主要諸元	12
各部の名称	13
運転を始める前に！	15
始業点検	15
上手に運転するには (1)	17
エンジンの始動のしかた	17
送リローラ操作のしかた	25
発進のしかた	20
粉碎モード切替のしかた	25
停止のしかた	20
送リ速度調整のしかた	26
変速のしかた	21
エンジン非常停止のしかた	27
旋回のしかた	21
排出ダクト	28
トラックへの積み降ろしのしかた	22
下方排出と安全ガード	29
ロータクラッチの入・切のしかた	24
粉碎のしかた	31
上手に運転するには (2) ～ナイフの交換手順と注意事項～	32
受刃の反転・交換・調整	32
スクリーンの取付	40
チップナイフの反転・交換・調整	35
スクリーン押さえボルトの調整	42
シュレツダナイフの取付	38
粉碎作業時の注意点	43
定期の点検・整備をするには	47
アワメータ	47
セフティスイッチの調整	54
オイル交換	47
角バネの交換	56
パワーバック	49
サイドクラッチ	58
パワーバックベルトの交換及び張り調整	50
ロータクラッチ (ワイヤ・ベルト)	58
油圧ホース	51
クローラ	60
走行クラッチ	51
バッテリー	61
駐車ブレーキ	52
エンジン	63
ブロワベルト	53
燃料タンク	69
給油・注油するところ	70
締付するところ	73
作業後の手入れ／長期保管	74
作業後の手入れ	74
注意	76
長期保管	74
付属工具一覧	76
消耗部品一覧表	77
こんなトラブルが起ったら	78
送リ制御チェック項目一覧	80
配線図	81
万一の事故に備えて	82
お客様へ	83
使用手順書	84
始業点検表	86

危険防止のために

本書及び本機では、危険度の高さ(または事故の大きさ)にしたがって、警告用語を以下のように分類しています。以下の警告用語が持つ意味を理解し、本書の内容(指示)に従ってください。

危 険
差し迫った危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う場合に使用されます。
警 告
潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う可能性のある場合に使用されます。
注 意
潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、軽傷を負う場合に使用されます。また、本製品に物的損害が発生する場合にも使用されます。

注 意
1. この取扱説明書は、いつでも読めるように、紛失、汚損の恐れのない、すぐに取り出せる所に必ず保管してください。
2. この取扱説明書が損傷により読めなくなった場合、紛失した場合は販売店より新しく取扱説明書を購入し、常に参照できるように保管してください。
3. この取扱説明書で解説している機械を貸与する場合は、借りて作業をする者に、この取扱説明書を読ませ、十分な指示、訓練を行った後、この取扱説明書とともに機械を貸与してください。
4. 製品を譲渡する場合は、この取扱説明書を製品に添付してください。

注 意
1. 本機を運転する者は、本機の取扱説明書をよく読み、理解してから運転すること。
2. 取扱説明書が損傷や紛失により読めなくなった場合は、販売店より新しい取扱説明書を購入し、常に参照できるように保管すること。
3. ラベルが損傷やはがれて読めなくなった場合は、販売店より新しいラベルを購入して貼り替えること。

1. 機械を運転する前に必ず取扱説明書を読んで操作をよく理解して安全に作業をしてください。
2. 取扱説明書でいう機械の「右」及び「左」、「前」及び「後」はオペレータが機械の投入口正面にいることを想定して意味しています。
3. 本製品は、子供、体調がすぐれない人、酒気を帯びた人、妊娠中、過労、病気、薬物の影響、その他理由により正常な運転が出来ない人は使用しないでください。また大人でも適切な訓練を受けずに運転させないでください。
4. 作業時および走行時は、前が見にくいいため回りの安全を十分確認の上、作業を行ってください。
5. 作業時にはヘルメット、安全靴、保護メガネ、防音保護具(耳栓)、保護手袋、長袖、長ズボンを着用してください。
軍手・布製の手袋・ダブダブの服・装飾品など投入物に引っ掛かり、引き込まれる可能性のあるものは着用しないでください。
6. 始業前点検や定期的な点検・整備を行ってください。異常があれば整備し正常な常態で運転をしてください。
点検・整備・清掃・給油をする時は、エンジンを必ず止めて、ロータの回転が止まっている事を確認し、エンジンキーを取り外してから行ってください。
取外したカバーは、点検後は必ず元通りに取り付けてから運転してください。
7. バッテリー・マフラーやエンジン・ベルトカバー内、配線部周辺にごみや燃料の付着があると火災の原因になることがありますので、日常点検をして取り除くようにしてください。
8. 運転は日中または十分な照明のあるときに限定してください。
9. エンジン始動前に、ロータカバーの固定ネジがしっかりと締まっているか確認してください。

危険防止のために

- 1 0. 居眠りや脇見運転はしないでください。運転前日は十分な睡眠を取り、運転中でも疲れを感じた場合は運転を中止し休息をとるようにしてください。
- 1 1. 作業は2人以上で行い、単独では行わないようにしてください。作業前に作業の手順・作業者の配置・合図の方法などの確認をし運転を始めるようにしてください。運転中も声をかけ合い互いに安全を確認しながら注意し行ってください。
- 1 2. 発進するときは、前後左右に危険がないか確認してゆっくり発進してください。走行中は路面の状況や周囲の状況を把握しながら慎重に運転してください。路肩や軟弱地、傾斜地や起伏の激しい場所等では走行しないでください。
- 1 3. 路肩を確認できるように除草し、予め進行方向の障害物の除去等を行った上で慎重な運転を心がけてください。
- 1 4. 坂道での停止は絶対しないでください。停止は平坦地にしてください。
- 1 5. 停車するときは、安全で平坦な場所を選んで停車してください。
- 1 6. 傾斜地での作業はしないでください。
- 1 7. たき火などの火のそばで運転しないでください。また絶対に火を近づけないでください。
- 1 8. 機械を後進させるときは、後ろに何もないことを先ず確認し、足元に十分注意し後進させてください。
- 1 9. 移動するときは、クローラ内に粉砕物等を堆積させないでください。誘導輪とクローラの上に挟まった状態では、無理な回転がかかることになりミッション破損の原因となります。
- 2 0. この機械を公道でけん引することはできません。
- 2 1. 公道で走行することはできません。移動時はトラック等に積み込んで移動してください。
- 2 2. トラックなどへの積み降ろしは危険です。後進（1速）でゆっくり積み、前進（1速）でゆっくり降ろし転落しないように十分注意してください。トラックは辺りが見通しがよい平坦な場所に停止し、駐車ブレーキと車止めをしてください。ブリッジは表示積載荷重が本機重量以上の表示のものを18°以内にセットしてください。
- 2 3. けん引をする場合は、けん引を行うに十分な駆動力と制動力を持った車両を使用し慎重に行ってください。特に坂道等を下るときは、速度が増さないように慎重に下るようにしてください。
- 2 4. ユニック等で本機をトラックなどへ積み降ろしを行う場合は、トラックを平坦なところに停車し、駐車ブレーキと車止めをして、バランスに気を付け転落しないように十分注意してください。
- 2 5. 部品が変形した状態、または部品が欠品になっている状態で、機械を絶対に運転しないでください。
- 2 6. 改造は一切してはいけません。
- 2 7. エンジンを始動させるときには必ず、オペレータはすべての駆動装置を切ってから行ってください。
 - (1) エンジンを始動させる前にエンジンの取扱説明書をよく読んでエンジンについて精通しておいてください。
 - (2) 誰も人を付けないで機械を放置して置くときは、次のことを必ず行ってください。
 - ① ロータクラッチレバーを「切」位置にします。
 - ② 走行クラッチレバーを「下」位置にします。
 - ③ 燃料コックを「閉」位置にします。
 - ④ キーを外します。

危険防止のために

28. 平坦で危険のないところで機械の操作の練習を行い、操作に習熟してください。
 - (1) エンジンの始動、停止とスロットルレバーの調整
 - (2) ロータクラッチの入切のしかた
 - (3) エンジン非常停止のしかた
 - (4) 送りローラ操作のしかた
 - (5) 走行（前進・後進）、停止、旋回のしかた
 - (6) 変速のしかた
29. 作業中および刃物の回転中は正面ホップのチップガードより奥に絶対に手をいれないでください。短材を投入する場合は棒等で押し込むようにしてください。
30. 材料を送り込む際は、材料が暴れたり、跳ね上がったたりする可能性があります。接触してケガをしないように十分に注意をするとともに、目を保護する保護メガネ、頭部を保護するヘルメット又は作業帽等を着用して作業してください。
31. 粉碎作業は2人以上で行い、単独では行わないようにしてください。安全の為、声をかけ合って作業をしてください。投入作業は、1人にて行ってください。材料の形状によっては、投入する際、材料が暴れたり、投入口から粉碎物の破片が飛び出してくることがありますので、投入口の正面に立たずに、脇に立って作業を行ってください。
32. 作業時、エンジン停止直後のマフラおよびその周辺は、高温のため触れないようにしてください。
33. 機械から離れる時は、必ずエンジンを停止し、ロータなどの回転部が完全に停止したことを確認してからエンジンのキーを外して離れるようにしてください。
34. 粉碎された材料は、排出ダクトより勢いよく排出されます。作業にかかる前に、排出ダクトの排出方向を定め、固定ハンドルをしっかり締めてから作業を開始してください。
35. ホコリや塵がたちやすい場所での作業時は、作業前に、必ず作業場付近に散水してから作業してください。
36. 屋内で作業を行う場合は、ドアや窓を開け十分な換気を行ってください。排気の一酸化炭素は猛毒です。
37. 作業中の点検はエンジンを停止し、回転部が完全に停止している事を確認してからエンジンのキーを外して行ってください。
38. 作業中は、各部点検カバー・ホップは絶対に開けないでください。作業中の点検はエンジンを停止し、回転部分が完全に止まってから行ってください。
39. フィードボックス・送りローラ取付部に直接ふれないようにしてください。ひっかかって、きちんと下がらない場合は、角材・棒等で押して、解除してください。
40. 送りローラの手前で粉碎物が滞留し取出す場合、つまりの原因を解除する場合は、必ずエンジンを停止しロータが完全に停止した事を確認しエンジンキーを取り外してから詰まりの除去を行ってください。
41. 停止中、運転中にかかわらず、送りローラに触れないようにしてください。
42. 前が見にくいいため、作業時は、周りの安全を十分確認の上、作業を行ってください。
43. エンジン回転中またはロータ回転中に排出口をのぞいたり手や足をいれないでください。
44. 異音がしたり、異常を感じたら作業を終了しエンジンを切り回転部の回転を停止させてください。

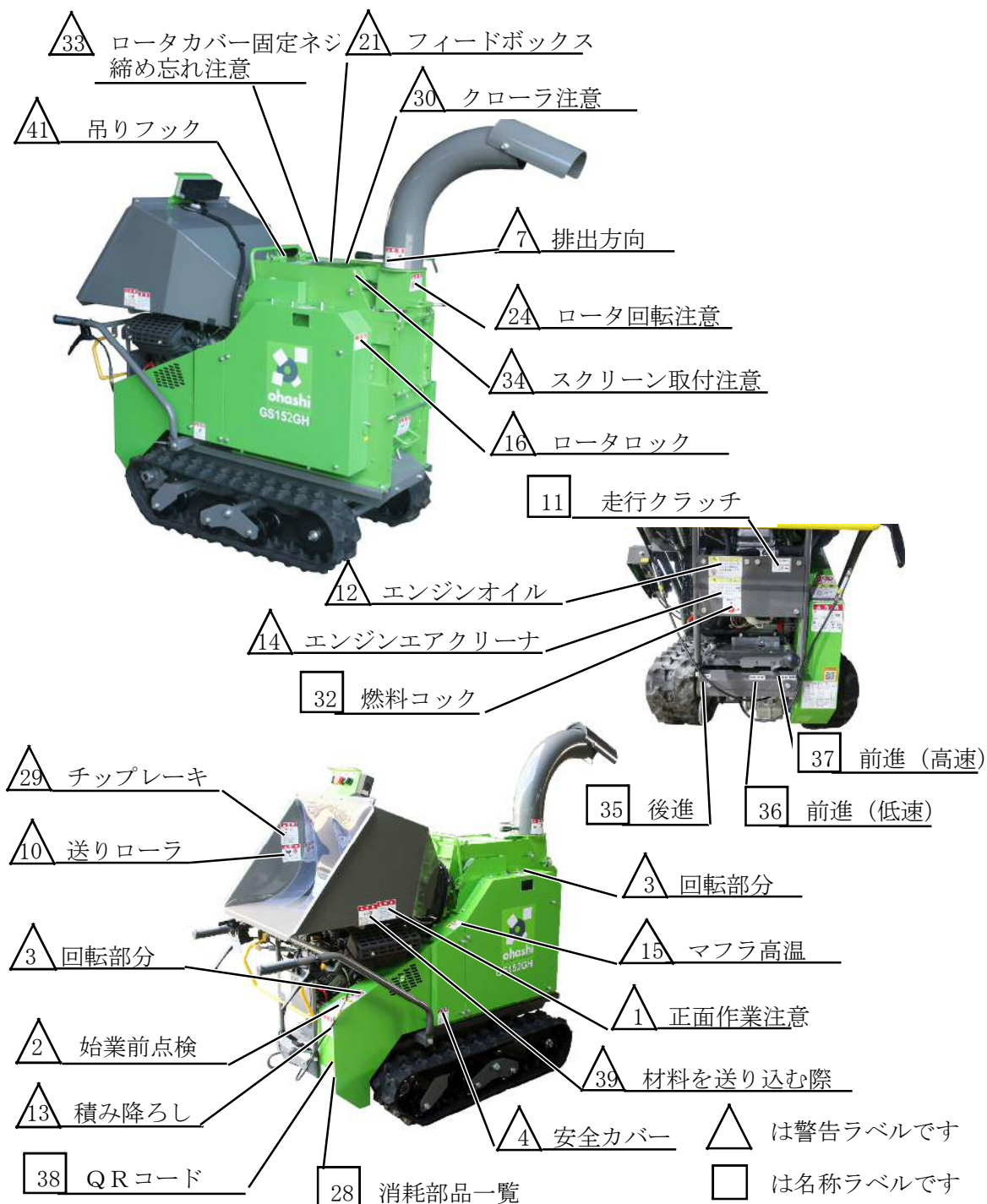
危険防止のために

- 4 5. 作業終了後の点検・整備の際は、必ずエンジンを停止し、ロータなどの回転部が完全に停止したことを確認してからエンジンのキーを外して行ってください。送りローラに挟まれないように注意して行ってください。
- 4 6. 作業終了後は、本機各部の清掃・点検及び給油を十分行ってください。特に、エンジンのエアクリーナエレメントは、エンジントラブル防止のため、こまめに清掃して下さい。
- 4 7. 機械の点検整備等をするときは必ずエンジンを停止させ、ロータなどの回転部が完全に停止している事を確認してからエンジンのキーを外して行ってください。
ナイフを扱う際は、必ず保護手袋を着用してください。
- 4 8. エンジンの点検・整備をするときはエンジンキーを外してエンジンが十分冷めてから行ってください。
- 4 9. 燃料ホースは2年ごとに交換してください。
- 5 0. 燃料は可燃性が高いので注意して扱ってください。
 - (1) 新しい清浄な燃料のみ使用してください。
 - (2) 油は決められた燃料容器を使用し、この燃料容器の口はタンク注入口に挿入できるものでなければなりません。挿入できないものであれば、専用の給油ポンプを使用してください。
 - (3) 給油する際はエンジンを停止して、2分以上冷却してください。スパークプラグ、エンジン本体やエキゾーストパイプにガソリンをこぼさないよう特に注意してください。エンジン始動時の火花による引火や温度上昇による引火のおそれがあります。
 - (4) エンジン回転中、または熱い間はキャップを外してエンジンに燃料を給油しないでください。燃料がこぼれた場合はきれいに拭き取ってください。
 - (5) 屋内でタンクに燃料を入れたりしないでください。
 - (6) 燃料を洗剤として使わないでください。
 - (7) 燃料を扱っているときは、換気の良い所で行い、火気の近くやくわえタバコではしないでください。
 - (8) 裸照明は絶対にしないでください。
 - (9) 裸火のある場所または火花を発生する装置の近くに燃料容器を保管しないでください。
- 5 1. 2人以上で整備をするときは声を掛け合い、けがのないよう十分に注意して行ってください。
- 5 2. 屋内に機械を保管するときはエンジンが冷めた事を確認し保管して下さい。必ずキーを外しておいてください。シートカバーを掛ける時はエンジンが熱いときは掛けないでください。エンジンが冷めた事を確認し掛けてください。

ラベルについて

機械には操作系などのラベルと「注意」「警告」「危険」の警告ラベルを貼付しています。使用前に各ラベルの位置を確認し各ラベルの意味を十分理解しておいてください。万一、ラベルが磨滅したり破損して読めなくなった場合や、はがれて紛失した場合は販売店より、新しくラベルを購入し特に、警告ラベルは「ラベルの位置」に指示してある箇所に確実に貼り、他のラベルについても「ラベルの位置」を参照に貼って常にラベルが読める状態を維持してください。

ラベルの位置

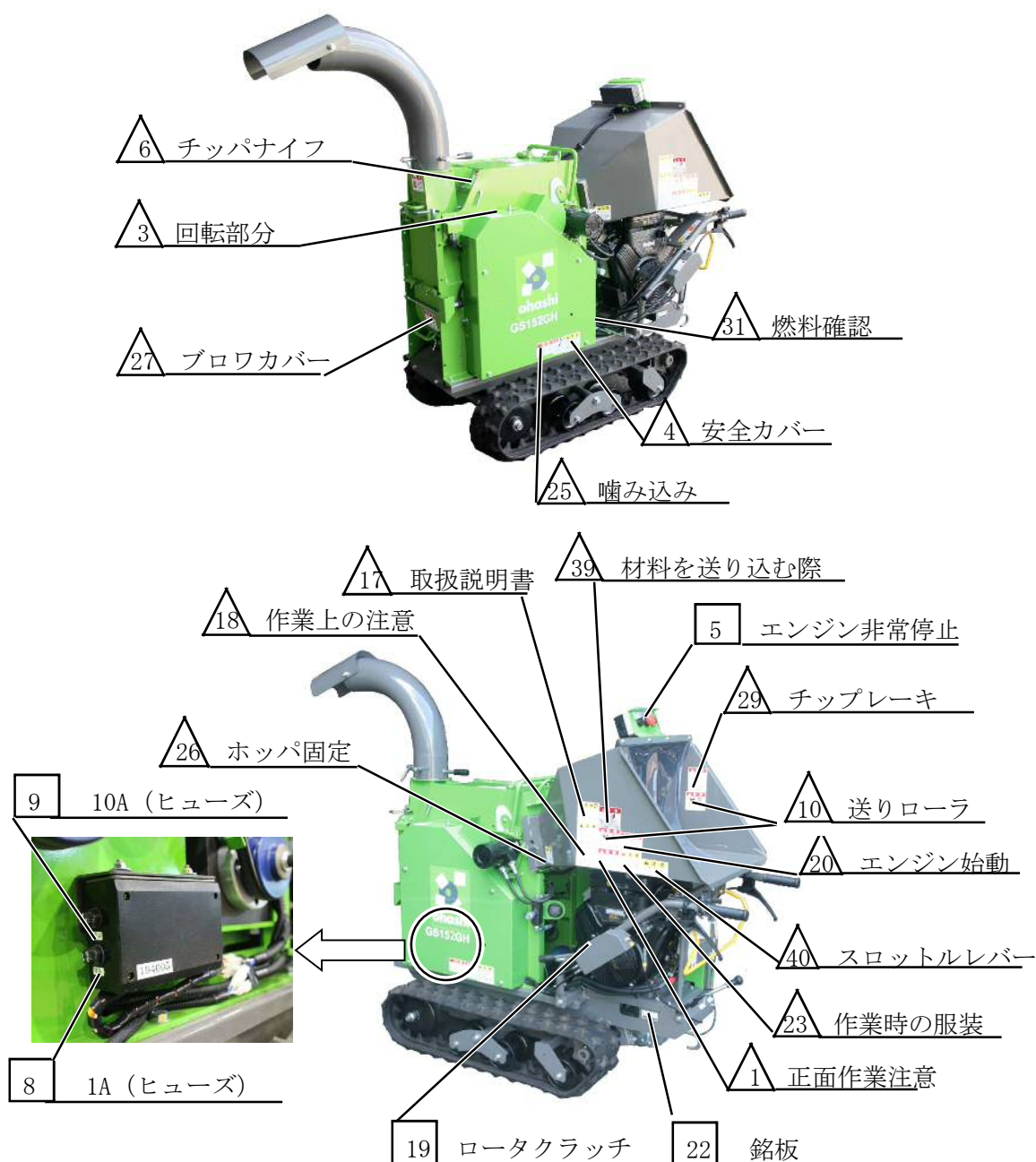


ラベルについて

機械には操作系などのラベルと「注意」「警告」「危険」の警告ラベルを貼付しています。使用前に各ラベルの位置を確認し各ラベルの意味を十分理解しておいてください。万一、ラベルが磨滅したり破損して読めなくなった場合や、はがれて紛失した場合は販売店より、新しくラベルを購入し特に、警告ラベルは「ラベルの位置」に指示してある箇所に確実に貼り、他のラベルについても「ラベルの位置」を参照に貼って常にラベルが読める状態を維持してください。

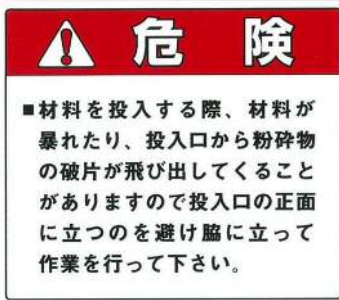
ラベルの位置

- △ は警告ラベルです
□ は名称ラベルです



ラベルについて

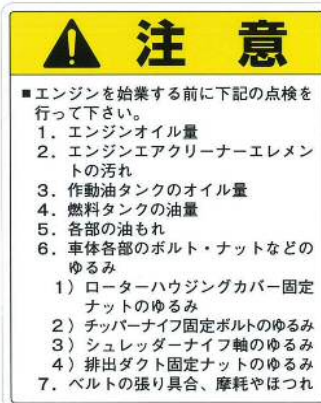
1 正面作業注意



4 安全カバー



2 始業前点検



6 チップナイフ



3 回転部分



7 排出方向



8 1 A

9 10 A

1A

10A

5 エンジン非常停止



ラベルについて

10

送りローラ



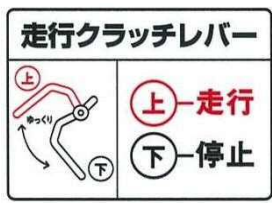
15

マフラ高温



11

走行クラッチ



16

ロータロック



12

エンジンオイル



17

取扱説明書



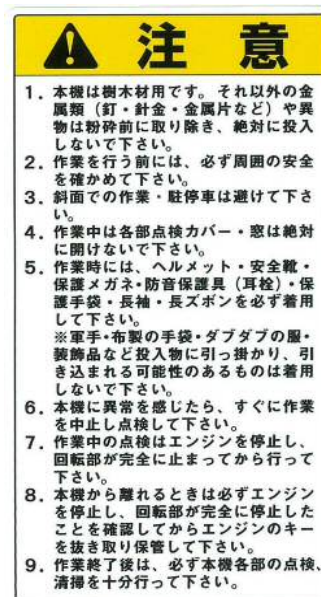
13

積み降ろし



18

作業上の注意



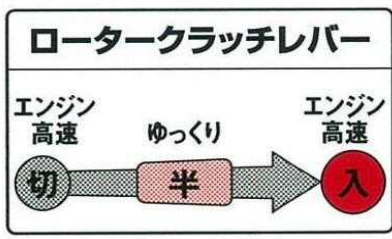
14

エンジンエアクリーナ



ラベルについて

19 ロータクラッチ



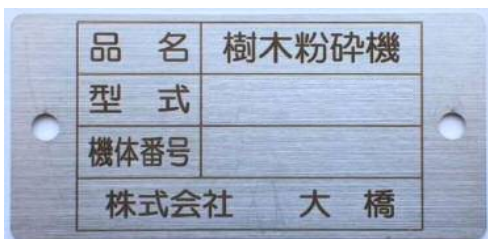
20 エンジン始動



21 フィードボックス



22 銘板



23 作業時の服装



24 ロータ回転注意



25 噛み込み



26 ホッパ固定



ラベルについて

27 ブロワカバー



28 消耗部品一覧

消耗部品一覧			152
品名	サイズ・ナンバー		数/台
ロータベルト	4R-3V-800		1
走行ベルト	SA-38		1
パワーバックベルト	SB-43		1
ブロワベルト	SA-41		2
エンジンオイル	SF級以上, SAE30	1.0L [ゲージ]	
走行ミッションオイル	ギヤオイル#80		0.7L
パワーバックオイル	ISO VG46 相当粘度		3.0L

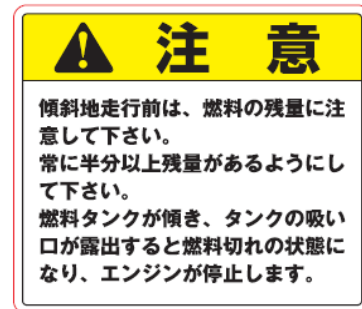
29 チップレーキ



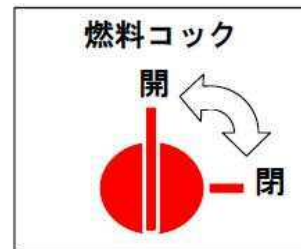
30 クローラ注意



31 燃料確認



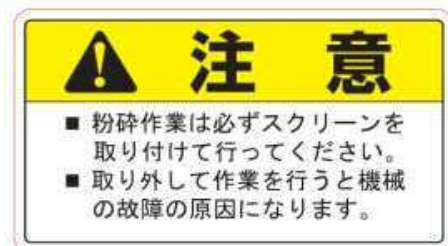
32 燃料コック



33 ロータカバー固定ネジ締め忘れ注意



34 スクリーン取付注意



ラベルについて

35 前進（低速）

前進（低速）

36 前進（高速）

前進（高速）

37 後進

後進

38 QRコード



39 材料を送り込む際



40 スロットルレバー



41 吊りフック



本機の使用目的・主要諸元

本機の使用目的

本機は、平坦地での使用を前提とし、樹木材を粉碎、減容化する事を目的とした機械です。土・砂・石・金属・ビン・樹脂・焼き物等は絶対に混入しないでください。本機を使用目的以外に使用しないでください。

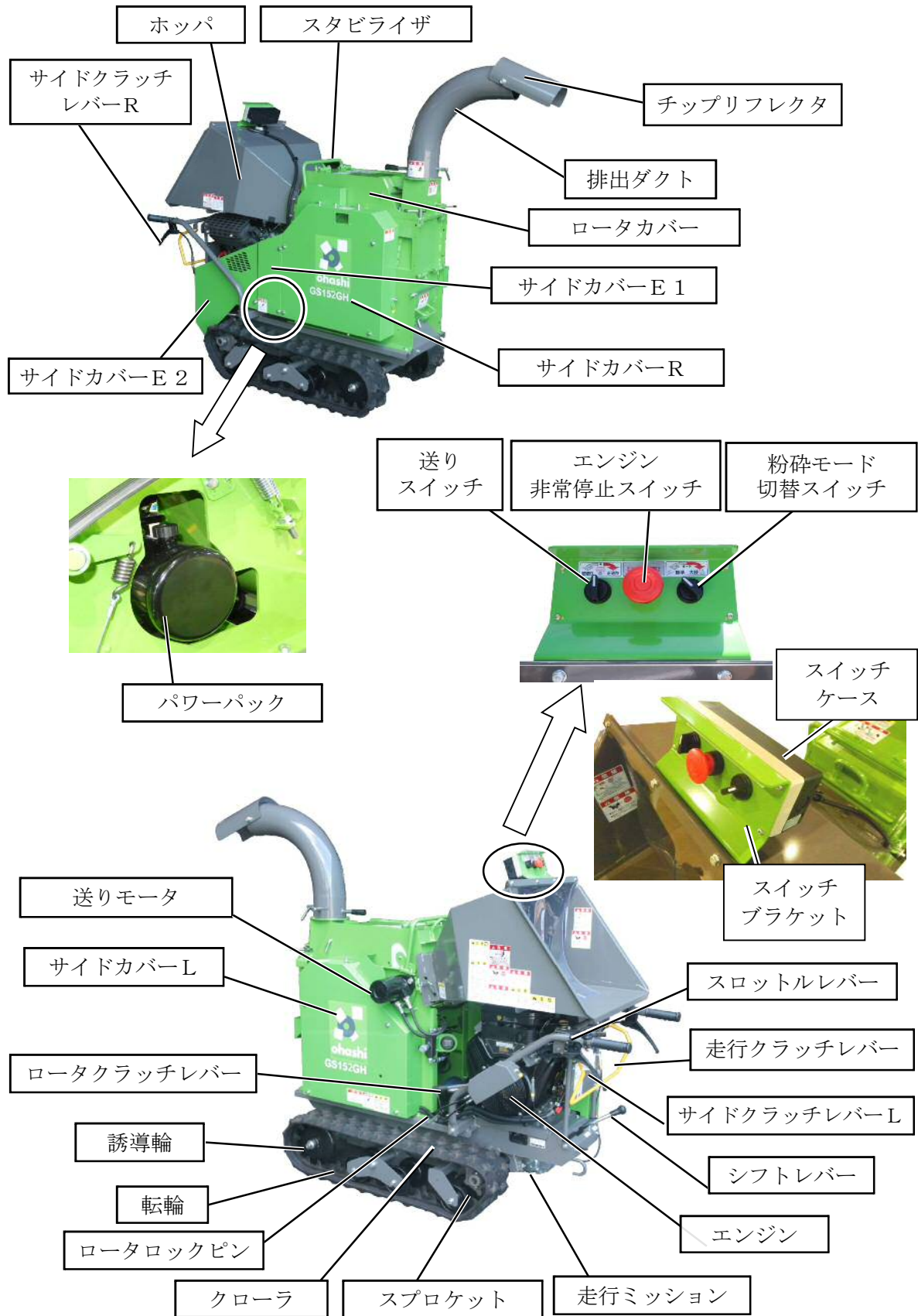
主要諸元

品名	樹木粉碎機
型式	GS152GH
全長×全幅×全高	(本体) 1580×700×1380mm
	(ダクト使用時) 2090×700×1560mm
重量	455kg
駆動方式	ベルトクラッチ・Vベルト
処理径	最大 150mm (軟質材)
破碎刃	チップナイフ2枚・受刃・シュレツダナイフ8枚
付属スクリーン	40mmスクリーン
ホッパ口径	520×415mm
送り装置	油圧モータ方式 (自動制御付)
排出方式	ブロワ空気搬送式
ダクト高さ	1560mm
排出角度	可変式
走行方式	ゴムクローラ自走式
走行速度	F 1速1.2 F 2速2.5 R 1.4 km/h
エンジン	ブリッグス&ストラットン 3864
最大出力	23.0 (16.9) ps (kw)
燃料	自動車用無鉛ガソリン (燃料タンク15.0リットル)

*この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。
尚エンジンにつきましては、エンジン取扱説明書をご覧ください。

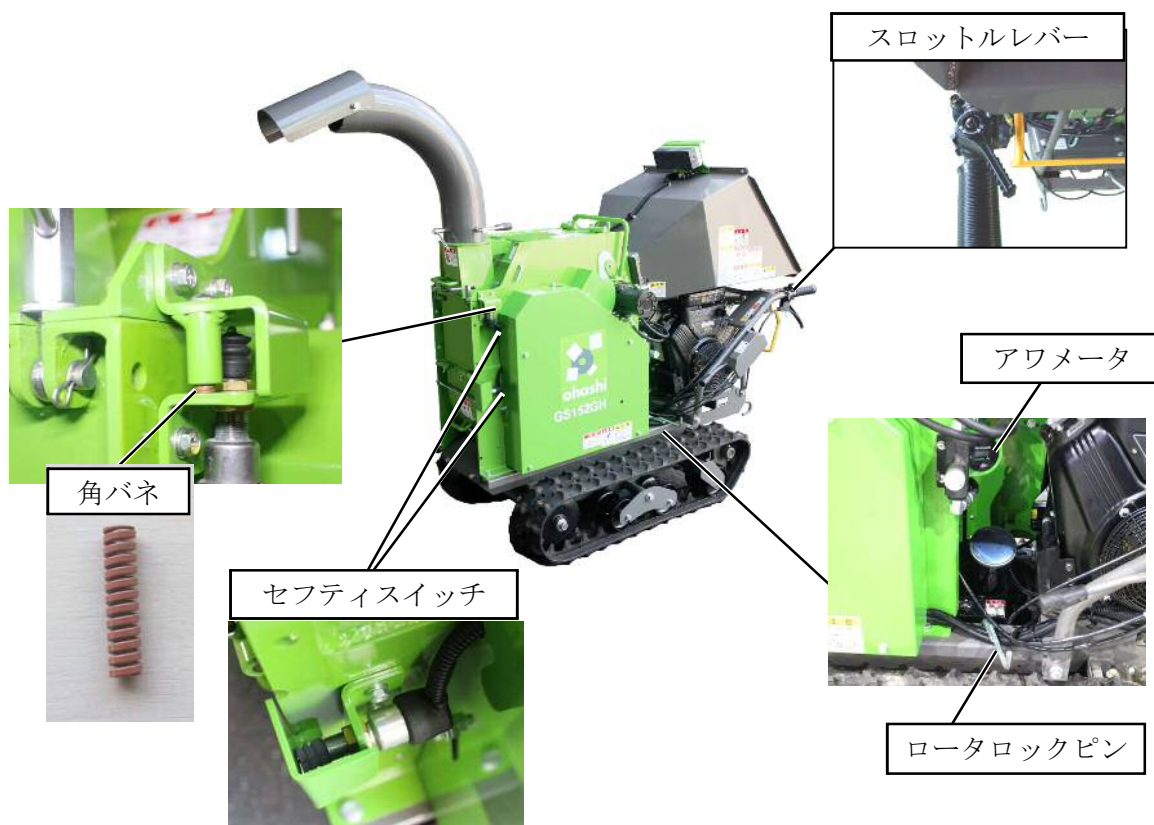
各部の名称

機械を見ながら名称を確認ください。



各部の名称

機械を見ながら名称を確認ください。



運転を始める前に

機械を調子よく保ち効率的に作業ができるように毎日の作業前には必ず点検・整備を行いましょう。

注	<p>安全に運転する為・燃料への引火防止のために、次のことを厳守してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 点検をする時はロータクラッチレバーを「切」位置、シフトレバーをニュートラル位置にし、駐車ブレーキをかけてから行ってください。 2. 本機は樹木材用です。それ以外の金属類（釘・針金・金属片・ロープ・ひも・土・砂・石・セメント・ピンなど）や異物は粉碎前に取り除き、絶対に投入しないでください。 3. エンジン始動前にロータカバーの固定ネジがしっかりと締まっているか確認してください。 4. 作業を行う前には、必ず周囲の安全を確かめてください。（公園など、公共施設での作業の場合は、特に周囲の安全確認を徹底してください。） 5. 斜面での作業・駐停車はしないでください。 6. 作業中は各部点検カバーは絶対に開けないでください。 7. 作業時には、ヘルメット・安全靴・保護メガネ・防音保護具（耳栓）・保護手袋・長袖・長ズボンを必ず着用してください。 8. 軍手・布製の手袋・ダブダブの服・装飾品など投入物に引っ掛かり、引き込まれる可能性のあるものは着用しないでください。 9. エンジンを始動する際は、走行クラッチレバー「下」位置、ロータクラッチレバーが「切」位置にある事を確認してください。
意	<ol style="list-style-type: none"> 10. 異常を感じたら、すぐに作業を中止し点検してください。 11. 作業中の点検は、必ずエンジンを停止し、ロータなどの回転部が完全に停止したことを確認してから行ってください。 12. 本機から離れるときは必ずエンジンを停止し、回転部が完全に停止したことを確認してからエンジンキーを抜き取ってください。 13. 作業終了後は、必ず本機各部の点検・清掃を十分行ってください。 14. エンジン回転中やエンジンが熱い間は注油・給油及び点検整備は絶対してはいけません。 15. 燃料の運搬や補給などの取扱い時は、くわえ煙草・裸照明は絶対してはいけません。 16. 操作系の点検は一部試走確認点検が必要であるため、平坦で広く障害物のない安全な場所で行ってください。その際整備が必要な場合は1.項目内容を厳守してください。 17. 取外したカバー類は、元通りに装着してください。

始業点検

NO.	こ こ を	こんな点検をして	こう処置する	
1	エンジン	燃料タンク	必要な量の燃料があるか 燃料もれはないか	補給する。整備する。 ・レギュラガソリン (15L)
		クランクケース	検油ゲージの上下刻線の間 に油量があるか。汚れていない か	補給する。汚れがひどければ交 換する。 ・エンジンオイル量(1.0L) ・SF、SG、SH、SJ及びこれ以 上の高品質なオイルを使用し てください。オイル粘度は外気温 4℃以上でSAE30のオイルを 使用してください。 ※エンジン取扱説明書参照
		エアクリーナ エレメント	ゴミの付着や汚れがないか	エアクリーナエレメントのゴ ミを除去し、きれいに清掃す る。 エンジン取扱説明書参照

運転を始める前に

始業点検

NO.	ここを	こんな点検をして	こう処置する	
2	操作系	ロータクラッチレバー	入切が確実にできるか	適正に調整する
		走行クラッチレバー (駐車ブレーキ)	遊びしろは適正か ブレーキの効きは十分か	適正に調整する
		サイドクラッチレバー	左右の旋回はスムーズに行えるか	適正に調整する
3	ロータ	ベアリングユニットのグリース給脂はよいか	給脂する	
4	チップナイフ	取付ボルト・ナットのゆるみはないか 刃こぼれ、ひび等がないか	増締めする (締付トルク 110 N・m) 反転、又は交換する	
5	受刃	取付ボルト・ナットのゆるみはないか 刃こぼれ、ひび等がないか	増締めする (締付トルク 110 N・m) 反転、又は交換する	
6	走行ミッション	オイルは規定量入っているか	補給する ・ギヤオイル#80 (0.7L)	
7	クローラ	張りは適正か スチールコード・ゴムの破損、劣化はないか	張りを正しく調整する 交換する	
8	ロータベルト	張りは適正か 磨耗やほつれはないか	張りを正しく調整する 交換する	
9	ブロワ	ベアリングユニットのグリース給脂はよいか	給脂する	
10	ブロワベルト	張りは適正か。磨耗やほつれはないか	張りを正しく調整する 交換する	
11	パワーパック (タンク付油圧ポンプ)	オイル漏れは発生していないか 取付ボルトのゆるみはないか オイルは規定量入っているか	オイル漏れは増締めして様子を見る 増締めする 補給する 油圧作動油ISOVG46相当粘度(3 $\frac{1}{2}$)	
12	パワーパックベルト	張りは適正か 磨耗やほつれはないか	張りを正しく調整する 交換する	
13	油圧ホース・油圧系各部	オイル漏れは発生していないか、切れ、磨耗、ねじれ、接合部のゆるみはないか	新品と交換する 接続部のゆるみ、オイル漏れは増締めして様子を見る	
14	重要なボルト・ナット・ エンジン取付ボルト ・ロータハウジング 取付ボルト ・ロータカバー固定 ナット	取付ボルト・ナットのゆるみはないか	増締めチェックする	
15	各ワイヤ・レバー・支 点及び磨耗部・しゅう 動部	潤滑油が不足していないか 適正に作動が行えるか	適量注油する 適正に調整する ギヤオイル#80、WD-40など	

※処置をしても直らない場合は、販売店へご相談ください。

上手に運転するには (1)

注意

■エンジンを始業する前に下記の点検を行って下さい。

1. エンジンオイル量
2. エンジンエアクリーナーエレメントの汚れ
3. 作動油タンクのオイル量
4. 燃料タンクの油量
5. 各部の油もれ
6. 車体各部のボルト・ナットなどのゆるみ
 - 1) ローターハウジングカバー固定ナットのゆるみ
 - 2) チッパーナイフ固定ボルトのゆるみ
 - 3) シュレッダーナイフ軸のゆるみ
 - 4) 排出ダクト固定ナットのゆるみ
7. ベルトの張り具合、摩耗やほつれ

危険

1. エンジンを始動する際は、走行クラッチレバーが「切」位置、ロータークラッチレバーが「切」位置にある事を確認して下さい。
2. 走行停止後、粉碎作業時は、シフトレバーをN(中立)位置にして下さい。

危険

ロータカバー

固定ネジ

危険

■ロータカバー固定ネジの締め忘れに注意して下さい。運転時に、ロータカバーが開き粉碎物や部品が飛び出し危険です。



注意

エンジン始動をする際、エンジン非常停止スイッチが押されていないか確認して下さい。
 エンジン非常停止スイッチは、右へ回すと解除します。(スイッチが元の位置に飛び出します。)

エンジンの始動のしかた

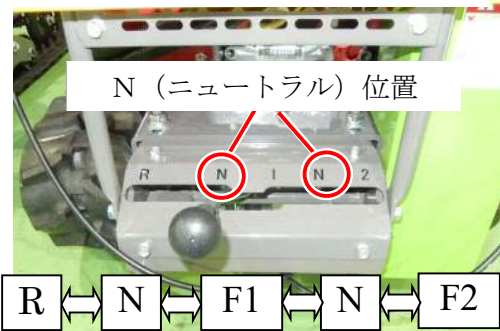
1. 走行クラッチレバーを「下」位置にしてください。(駐車ブレーキも同時に入ります。)

走行クラッチレバー



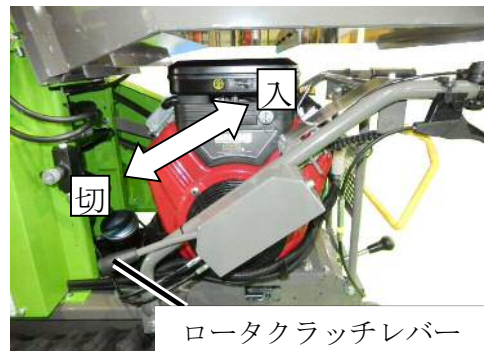
2. シフトレバーを「ニュートラル」位置にします。

シフトレバー



3. ロータクラッチレバーを「切」位置にしてください。

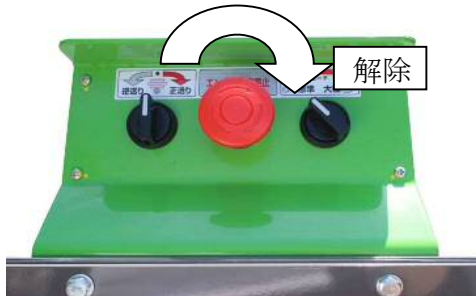
ロータクラッチレバー



上手に運転するには (1)

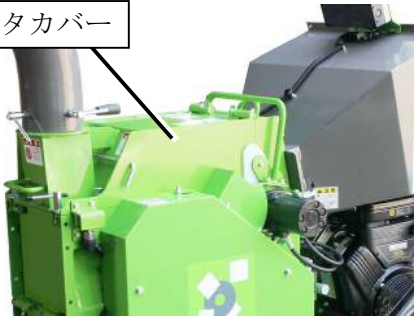
4. エンジン非常停止スイッチが、『解除』されている事を確認してください。

エンジン非常停止スイッチ



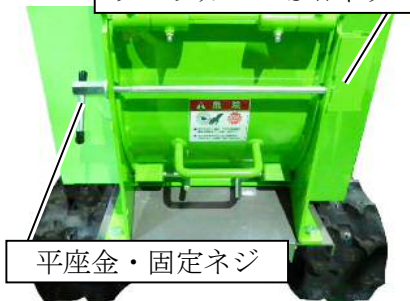
5. ロータカバーが閉まっている事を確認してください。

ロータカバー



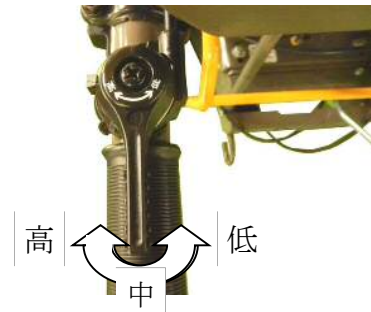
6. ブロワカバーが閉まっている事、ブロワカバーSWドグを取り付けしている事を確認してください。
この時、下方より排出をする場合は、オプションの安全ガードを排出口へ取り付けをしてください。
(P 29 『下方排出と安全ガード』参照)

ブロワカバーSWドグ

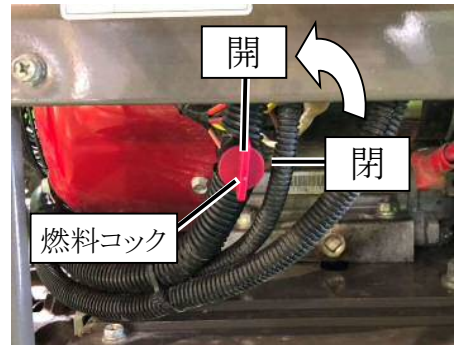


7. スロットルレバーを「中」位置にしてください。

スロットルレバー



8. 燃料コックを「開」位置にして、チョークノブを「閉」位置にしてください。



9. エンジンキーを右に回し『ON』位置にしてください。更に右へ回し『START』位置に入れエンジンが始動したらすぐ離してください。
(キーは『ON』位置に止まります) キーを『START』位置に5秒以上入れないでください。

上手に運転するには（１）

注 意

セルモータの寿命を延ばすためにも、短い時間で回してください。
始動しない場合は、1分以上空けてから再度始動してください。



10. エンジンが始動したらチョークノブを徐々に「開」位置にしてください。

注 意 1

チョークノブはエンジンの調子をみながら徐々に戻し、最後に必ず全開にしてください。

注 意 2

寒いときまたはエンジンの冷えているとき、急にチョークノブを戻すと、エンジンが停止することがあります。ご注意ください。

11. エンジン始動後、負荷をかけずに1～2分程低速で**暖気運転**をしてください。

注 意

『START』始動を3回以上行っても始動しないとき、続けて何回も『START』始動していると燃料を吸いすぎ始動困難になりますので、チョークノブを「開」にし、スロットルレバーを「中」位置から「高」位置にしてから『START』始動してください。

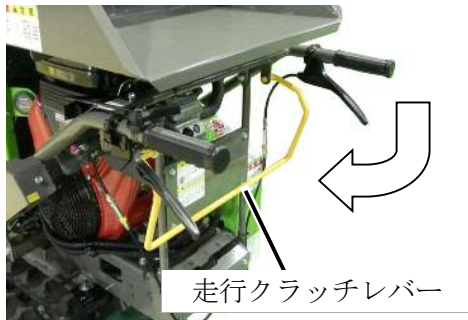
上手に運転するには (1)

発進のしかた

安全のため、走行時はスロットルレバーの『中速』以下で走行してください。

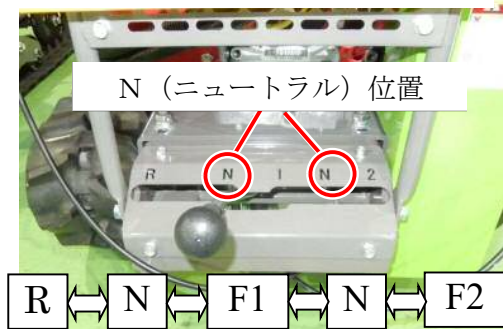
1. 走行クラッチレバーが「下」位置にあることを確認してください。

走行クラッチレバー



2. シフトレバーを「F1：前進1速」、「F2：前進2速」、「R：後進」のいずれかの位置にしてください。

シフトレバー



3. 走行クラッチレバーをゆっくり「上」の位置にして発進します。
4. スロットルレバーの位置を変えて速度を調整します。中速以下で走行してください。

スロットルレバー



停止のしかた

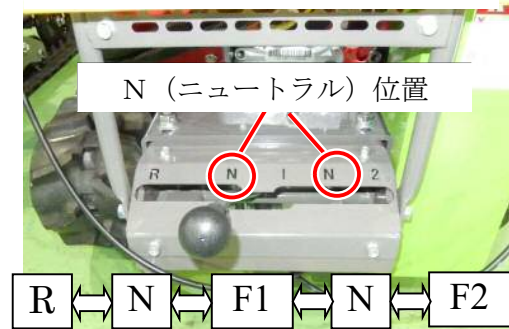
1. スロットルレバーを「低」位置にして減速します。

スロットルレバー



2. 走行クラッチレバーを「下」位置にし、平坦地に停車します。(同時に駐車ブレーキが掛かります)
3. シフトレバーを「N (ニュートラル)」位置にします。

シフトレバー



4. エンジンキーをOFFの位置にし、エンジンを停止します。



5. 燃料コックを閉じてください。

上手に運転するには (1)

変速のしかた

1. スロットルレバーを「低」位置にします。

スロットルレバー



2. 走行クラッチレバーを「下」位置にして停車します。

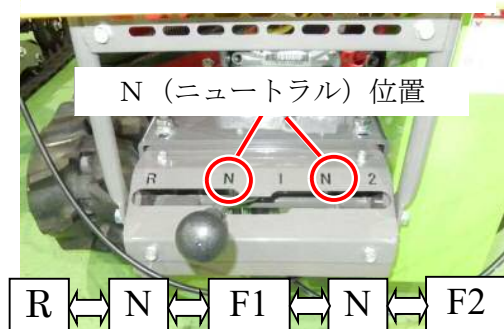
走行クラッチレバー



3. シフトレバーを作業に適した位置に入れます。

「F」…前進 「R」…後進

シフトレバー



4. 走行クラッチレバーをゆっくり「上」の位置にして発進します。
5. スロットルレバーの位置を前後して速度を調整します。

注意 1

走行クラッチレバーと駐車ブレーキが連動しており、走行クラッチレバーを「下」位置にすると自動的に駐車ブレーキがかかり、「上」位置にすると解除します。

注意 2

走行クラッチレバーと駐車ブレーキが連動しているために、チェンジが入りにくい場合があります。

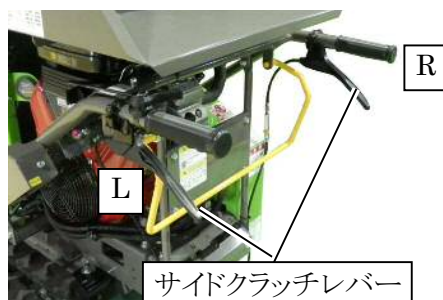
注意 3

変速は必ず走行クラッチレバーを「下」にしてから操作してください。

旋回のしかた

1. 左旋回する場合は、サイドクラッチレバーLを握り込んでください。左側のクローラが停止し、機体は左旋回します。
2. 右旋回する場合は、サイドクラッチレバーRを握り込んでください。右側のクローラが停止し、機体は右旋回します。

サイドクラッチレバー



注意 1

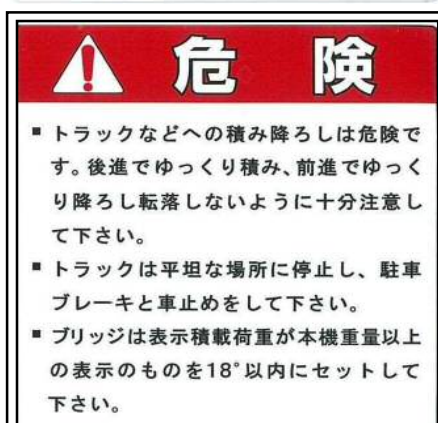
左右のレバーを同時に握り込むと走行は停止します。

注意 2

下り傾斜の場合は、逆操作になる場合がありますのでご注意ください。

上手に運転するには (1)

トラックへの積み降ろし



1. 積み降ろしのしかた
 - (1) 周囲に危険物のない、平坦な場所を選び、操作してください。
 - (2) トラックは動き出さないようにエンジンを止め、ギヤをバックに入れ、サイドブレーキを引き、さらに「車止め」をしてください。
 - (3) 基準に合ったブリッジを使用してください。
左右のクローラがブリッジの中央に位置するようにセットしてから積み降ろしを行ってください。
2. ブリッジ基準
 - (1) ブリッジは、強度・幅・長さ・すべり止め・フックのあるものを使用してください。
 - (2) 長さは、トラック荷台までの高さの3.5倍以上あるものを使用してください。
 - (3) 幅は、本機のクローラ幅にあったものを使用してください。

- (4) 強度は、本機重量および作業者の体重の総和に十分耐え得るものを使用してください。
- (5) 表面は、スリップしないように表面処理が施されたものを使用してください。

警告 1

運搬に使用する自動車は、荷台に天井のないトラックを使用してください。

警告 2

トラックへの積み降ろしは、平坦で安定した場所を選んでください。

警告 3

ブリッジのフックはトラックの荷台に段差のないよう又、外れないように確実に掛けてください。

警告 4

トラックへの積み降ろしの際、ブリッジ上での方向転換、変速はしないでください。

警告 5

本機がブリッジとトラックの荷台との境を越えるときには、急に重心の位置が変わりますので、十分に注意してください。

警告 6

トラックに積んで移動するときは、走行クラッチレバーは「下」位置にし、十分に強度のあるロープで確実に固定して荷台の上で動かないよう「車止め」を掛けてください。

警告 7

本機のクローラがブリッジの中央に位置するようにして作業を行ってください。

警告 8

原則として、積み込む場合は後進「1」位置、降ろす場合は前進「1」位置で行い、その他の位置には入れないでください。さらにスロットルレバーは「低」位置にし、ゆっくりと行ってください。

上手に運転するには (1)

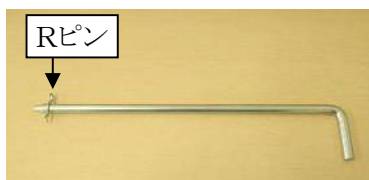
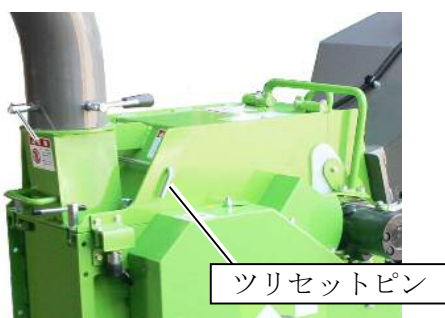
3. 吊り作業のしかた

注意

吊り作業時は、ロータカバーを閉めて、ロータカバーの固定ネジをしっかりと締めてください。ロータカバー固定ネジの締め忘れのないようにしてください。



一点吊フックを使用する場合は、下図についているツリセットピンを使用します。



- (1) ツリセットピンを下図 (矢印部分) に差し込み、付属のRピンを取り付けてください。



- (2) 吊作業が終わったら、ツリセットピンを取り外し、元の位置に戻して付属のRピンを取り付けてください。

注意

ツリセットピンを使用後は、戻し忘れのないように注意してください。ツリセットピンを取り付けしたまま、粉砕作業をしまうと、機械の破損につながり危険です。

上手に運転するには（1）

ロータクラッチの入・切にしかた

1. ロータクラッチが、確実に切れている事を確認してからエンジンを始動させ、スロットルレバーを「高」位置にして、エンジン回転をフルスロットルにします。
2. ロータクラッチレバーを「切」と「入」の中間位置（半クラッチ）にゆっくり倒し、エンジン音、ブレ等の様子を見ながら、エンジンが大きくブレない位置で保持します。

ロータクラッチレバー



3. ロータ（粉碎部）とブロワの回転上昇に伴い風切音が徐々に大きくなるのを確認してください。
※ チップがナイフやブロワの羽根に引っかかって回転始動しない場合があります。回転しない状態で「入」へ保持を続けるとベルトが焼損します。
4. ロータ回転が上昇し定速になるまでロータクラッチレバーを保持します。
5. 定速になったら、ロータクラッチレバーを「入」位置に向けてゆっくり倒します。
6. 粉碎作業はエンジン回転数を最高まで上げて作業を行ってください。

注 意

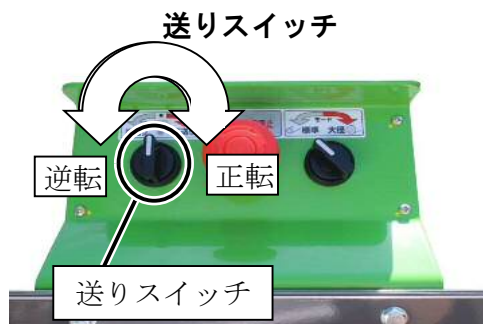
急に接続するとエンストを起こしたり、ベルトの破損につながりますので、クラッチ操作は必ずゆっくり行ってください。

7. ロータを停止させる場合は、ロータクラッチレバーを「切」位置にすると、ロータは停止します。その際にスロットルレバーを「低」位置にするとエンジンブレーキがかかり、ロータの回転をはやく低下させることができます。ロータの回転を十分落としてからロータクラッチレバーを「切」位置にしてください。

上手に運転するには (1)

送りローラ操作のしかた

1. 送りスイッチを「右」位置にすると送りローラは正転し材料をロータ内部へ搬送します。
2. 送りスイッチを中立位置にすると送りローラは停止します。
3. 送りスイッチを「左」位置にすると送りローラは逆転し材料を排出します。



注 意

この機械に投入出来る材料は最大で直径150mmまでです。それ以上大きい材料がある場合は、投入前に材料を薪割機等で小さく(細かく)してから作業を行ってください。

注意 2

送りローラは、マイコンで自動送り制御しています。負荷によりエンジン回転が落ちると送りローラは自動停止し、エンジン回転が復帰すると回転します。

粉碎モード切替のしかた

1. 非常停止ボタン右側にある粉碎モード切替スイッチを操作することにより樹木の太さに合った粉碎モードに切替ます。粉碎モードの選定は以下を参考にしてください。
※いずれの粉碎モードでもスロットルレバーを高速(エンジン全開)で粉碎してください。
高速でないと、つまりの原因やベルト破損に繋がります。



- ・スイッチ左方向：標準モード
粉碎物直径が100mm未満の場合には標準モードでの粉碎がより効果的に粉碎する事が可能となります。
- ・スイッチ右方向：大径モード
粉碎物直径が100mm以上の場合や硬い材質の場合には大径モードで粉碎してください。

注意 1

粉碎物直径が100mm未満の樹木でも多くを束ねて粉碎する場合には、大径モードで粉碎してください。

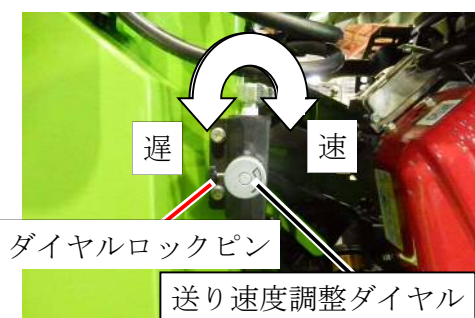
上手に運転するには (1)

送り速度調整のしかた

※この操作はオプションで送り速度調整ダイヤルを取り付けた場合の操作です。

作業条件（スクリーンサイズ、投入材料の径、硬さ等）や粉碎結果を見て送り速度を調整してください。
送り速度は送り速度調整ダイヤルで調整出来ます。

送り速度調整ダイヤル



時計回り：送り速度は速くなります。
反時計回り：送り速度は遅くなります。

※5 mm・8 mm スクリーンをつけた場合のダイヤル調整方法は、送り調整ダイヤルを左方向（遅く）へ全部回し、投入口に直径7 cm前後の竹や木を投入し、下記の要領で行ってください。

5 mm・・・

右方向（速い）へ回していき、竹や木が入りだすところから更に
1回転させてダイヤルロックピンで固定します。

8 mm・・・

右方向（速い）へ回していき、竹や木が入りだすところから更に
2回転させてダイヤルロックピンで固定します。

重要

投入する材料の粉碎状況を見てダイヤルの調整を行ってください。ホoppaからの粉碎物の戻りが多い場合はロータ内に粉碎物がたまりエンジンの停止につながりますので、送り速度を遅くしてください。

注意 1

標準モードで標準スクリーンを使って作業する場合は、ダイヤルを速くなる方向へいっぱいに回します。

注意 2

「遅」の方へ回しすぎると送りローラが空転しても、材料を投入すると送りローラに負荷がかかることで送り込みが停止する場合があります。「速」のほうへ微調整すると送り込むようになります。

注意 3

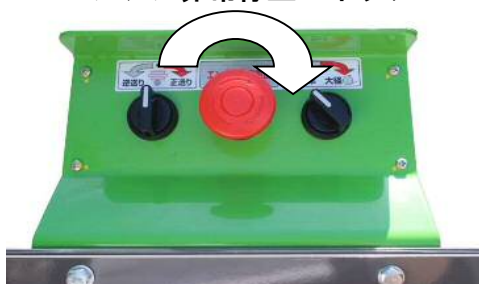
「極遅」作業の場合は、油温上昇に伴い送り速度の「速」の方への微調整が必要となります。
※油温上昇により、オイルの粘度が低下して速度調整油量が増加し、送りモータへの油量が零となり送りローラが回らなくなることがあります。

上手に運転するには (1)

エンジン非常停止のしかた

1. エンジン非常停止スイッチを押すと、エンジンが停止します。
2. エンジン非常停止スイッチは、右へ回すと解除します。(スイッチが元の位置に飛び出します。)

エンジン非常停止スイッチ



注意 1

エンジン非常停止スイッチを押して、エンジンが完全に回転停止する前にエンジン非常停止スイッチを解除すると、エンジンは再始動しますので注意してください。

注意 2

エンジン非常停止スイッチを押したままだとセルモータは回るが、エンジンはかかりませんので、その場合はエンジン非常停止スイッチを解除してください。

エンジンを再始動する場合は次の手順で行ってください。

1. エンジン非常停止をした原因を確認処置します。
2. スロットルレバーを「低」位置にします。

スロットルレバー



3. ロータクラッチレバーを「切」位置にしてください。

ロータクラッチレバー



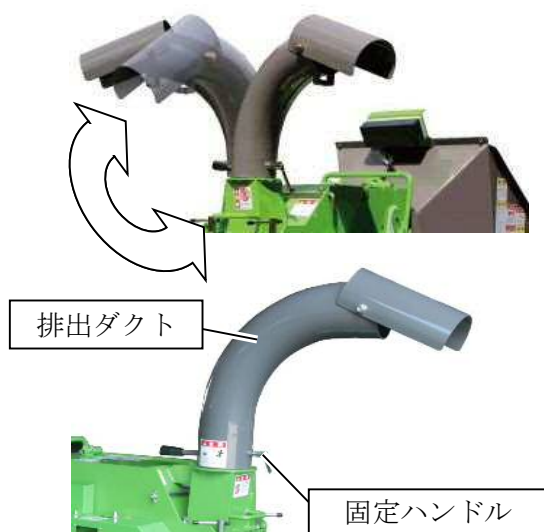
4. エンジンキーを『OFF』位置にしてから、P 17 『エンジン始動のしかた』の手順でエンジンをかけてください。

上手に運転するには (1)

排出ダクト

・排出ダクトの固定と排出方向

1. 粉碎された材料は、ダクトより勢いよく排出されますので事故につながる可能性があります。
作業に入る前に、ダクトの排出方向を定め、作業中にダクトが動かないように固定ハンドルをしっかりと締めてから作業を開始してください。



注意 1

粉碎した材料の排出方向は、エンジンがほこりを吸い込み、トラブルが発生することを避けるために、風向きを考慮し作業位置を工夫して、出来るだけエンジン側にほこりがこないようにしてください。

注意 2

前が見えにくいいため、作業時および走行時は、回りの安全を十分確認の上、作業を行ってください。

注意 3

作業中詰まった場合の除去方法

(P 4 4 参照)

～排出ダクトや、ロータ、ブロワにつまった場合～

- (1) エンジン停止、キーを外してください。
- (2) ロータ、ブロワ、排出ダクトからつまりを取り除いてください。

・ロータカバーを開ける時

排出ダクトは重量があり、排出ダクトをつけたままロータカバーを開けるとダクトの脱落やロータカバーの破損につながる可能性があります。
また、スイッチケースにあたり、破損にもつながりますのでロータカバーを開ける時には必ず排出ダクトを取り外してから開けるようにしてください。

1. 排出ダクトの固定ハンドルを緩めてください。



2. 排出ダクトを取り外してください。



上手に運転するには (1)

下方排出と安全ガード

オプションの安全ガードを排出口へ取り付けをする事により、下方より排出が可能になります。
水分率が高い物や少しぬれた物などは下方より排出してください。



注意 1

上下同時排出は出来ません。
下方排出の場合は安全ガードを必ず装着してください。

注意 2

下方排出の場合は安全ガードにつまる場合がありますので排出状況に注意してください。

注意 3

安全ガードのつまりを除去する場合は作業を中断し、エンジン停止・ロータの回転が完全に停止したのを確認し行ってください。

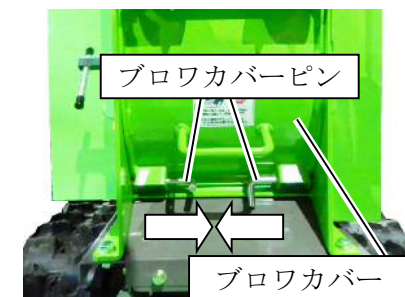
1. エンジンを停止させて、ブロワ回転が停止している事を確認してください。
下写真の、平座金・固定ネジ・ブロワカバーSWドグを取り外してください。



注意

取り外した部品は工具袋に入れ、保管してください。

2. ブロワカバーにあるブロワカバーピンを引き出して開けてください。

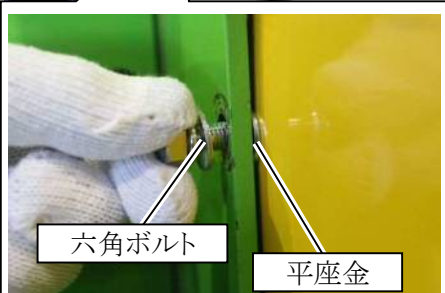
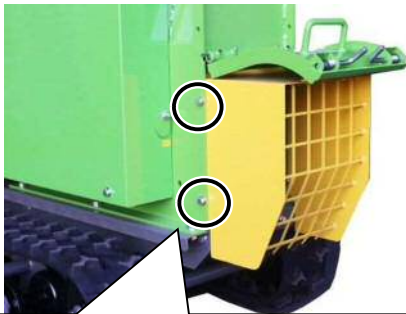


上手に運転するには (1)

3. 安全ガードを挿入し、取付穴の片側2箇所六角ボルトを挿し込み仮締めしてください。



4. 手順3. と反対側の取付穴に六角ボルトと平座金を挿し込み仮締めしてください。

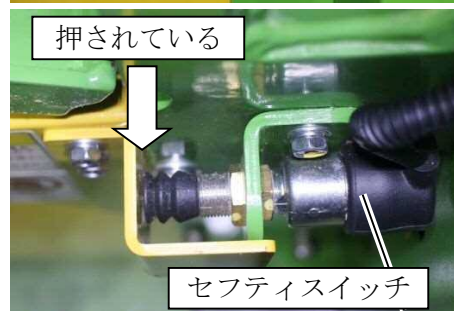


※平座金はロータハウジングと安全ガードの間隙に入れる。

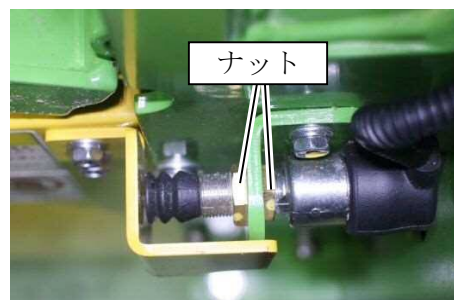
5. 4箇所の六角ボルトを締めてください。



6. セフティスイッチが押されている事を確認してください。



7. セフティスイッチが押されていない場合は、ナットを緩めてセフティスイッチの位置を調節してください。調節後はナットを締めてください。



8. エンジンを開始して、粉碎作業を開始します。

上手に運転するには (1)

粉碎のしかた



1. 粉碎作業は平坦地を選び走行レバーが「切」位置、シフトレバーが「N (ニュートラル)」の位置にあることを確認してください。
2. ロータクラッチを「ロータクラッチの入・切のしかた」(P 2 4 参照)の手順で「入」にします。
3. 送りスイッチを正送り側へまわし、粉碎物に合った粉碎モードを選択します。(P 2 5 「送りローラ操作のしかた」、「粉碎モード切替のしかた」参照)
4. 粉碎作業を開始します。

注意 1

ホッパから投入できる材料は最大で直径 150 mm です。それ以上大きな材料の場合は、投入前に材料を小さく(細かく)してから作業を行ってください。

注意 2

材料を投入する際に材料が暴れたり、粉碎中にホッパから粉碎物の破片が飛び出してくることがありますので、ホッパの正面に立たずに、脇に立って作業を行ってください。

注意 3

粉碎作業の注意点・・・P 4 3 参照

- ・投入物の注意点
- ・詰まった場合
- ・その他

上手に運転するには（２）～ナイフの交換手順と注意事項～

受刃の反転・交換・調整

注 意

1. 点検・整備をする時は、ロータクラッチを「切」位置、走行クラッチレバーを「下」位置、シフトレバーを「ニュートラル」位置にして、エンジンを停止しエンジンキーを外してから行ってください。
2. 点検は、回転部が完全に止まってから行ってください。
3. チップナイフを扱う際は、必ず保護手袋を着用してください。
4. 取外したカバー類は元どおりに装着してください。
5. エンジン停止直後のマフラおよびその周辺は、高温のため触れないようにしてください。十分に冷えた事を確認し、点検・整備をしてください。



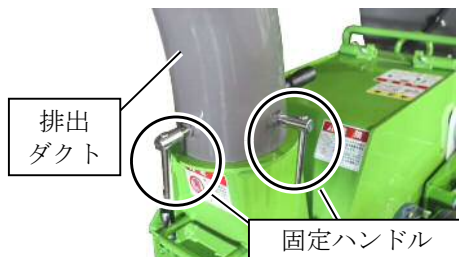
受刃の刃先が丸くなったら受刃を固定している固定ボルト（3本）を外して、反転または交換してください。
受刃を反転・交換・調整する場合は、以下の要領で行ってください。

《受刃の反転時間の目安》

受刃片面約75時間程度使用可能です。片面使用後は受刃の反転をしてください。
両面使用後は刃の研磨をする事で再度使用する事が出来ます。

※反転時間に関しては当社の目安になります。機械の使用のしかたや刃の状態によって調整するようにしてください。
なお、この期間はあくまでも目安であり、この期間内に故障しないことをお約束するものではありません。

1. 排出ダクトの固定ハンドルをゆるめ、排出ダクトを取り外してください。



2. ロータカバーの固定ネジを緩め、ロータカバーを開けてください。



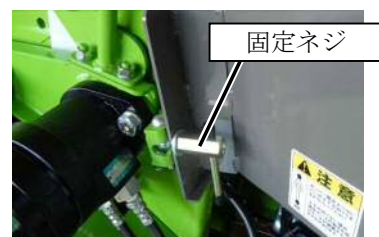
3. 投入口方向から見て左側面土台のフレームよりロータロックピンを抜き取り、ロータロックピンでロータを固定してください。



4. チップナイフ（2枚）のボルト・ナットを取り外して、チップナイフを取り外してください。

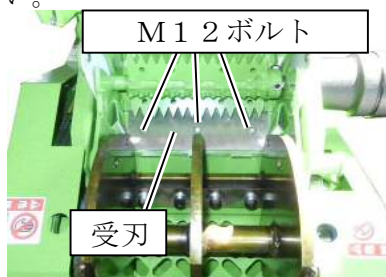


5. ホッパ固定ネジをゆるめ、ホッパを開けてください。



上手に運転するには (2) ～ナイフの交換手順と注意事項～

6. 受刃を固定しているM12の受刃固定ボルト（3本）を下側から外してください。

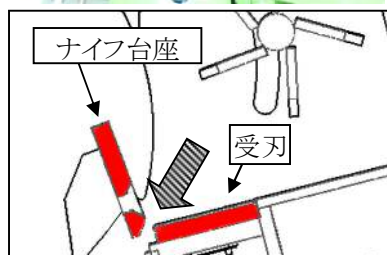
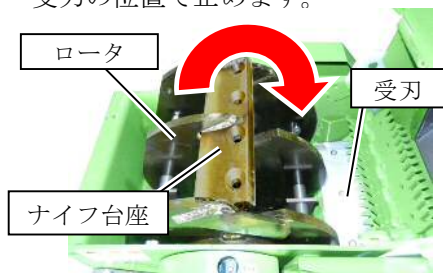


下側からM12ボルトを
回し取り外してください。

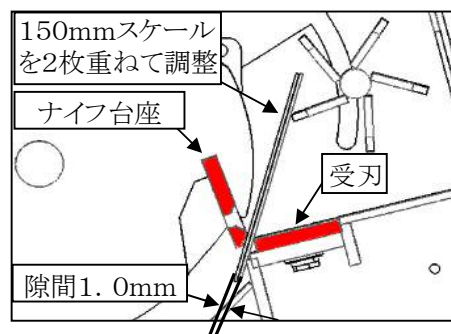
7. 受刃を反転、または交換しM12の受刃固定ボルト（3本）を軽く締めます。（受刃台座が長穴になっております）

注 意

- (1) 受刃取替え時（反転、研磨の際）スプリングワッシャは新品と交換してください。
 - (2) 受刃を新品交換の際はボルト・ナット・スプリングワッシャ・座金を新品と交換してください。
 - (3) 受刃を取り外した時に、付着しているチップの詰り等を取り除いてください。
8. ロータロックピンを取り外し、手でロータをゆっくり回して、ナイフ台座の一番外周部（下図矢印部分参照）を受刃の位置で止めます。



9. 付属のゲージ2枚を重ねて（150mmスケールの厚みで）受刃とナイフ台座の隙間（1.0mm）を調整します。受刃を動かし隙間調整をしてください。



10. 調整後は締め付けトルク 110N・mで受刃の固定ボルト（3本）の締め付けを行ってください。

注 意

受刃の固定ネジは締め不足、締め忘れのないようにしてください。
作業中に外れると機械が破損するばかりではなく、金属片が飛び出して大変危険です。

11. 受刃の隙間調整を行った後、ロータロックピンでロータを固定して、チップナイフの取り付けとチップナイフの隙間調整を行ってください。
※P35『チップナイフの反転・交換・調整』の要領で行ってください。

12. 受刃の反転、または交換後は、ロータロックピンとロータカバー、投入口のホッパを元に戻し、固定ネジをしっかりと締め付けてください。

注 意 1

ロータカバーの固定ネジがしっかり締まっている事を確認し、締め忘れのないようにしてください。



上手に運転するには（２）～ナイフの交換手順と注意事項～

注意 2

ホッパー固定ネジはレバーが上下方向でとまるようにしてください。
上下方向でない場合、油圧ホースの動きを妨げホースが破損するおそれがあります。



13. 排出ダクトを元のおりに取り付け、固定ハンドルをしっかりと締めてください。

上手に運転するには (2) ～ナイフの交換手順と注意事項～

注	意
1.	点検・整備をする時は、ロータクラッチを「切」位置、走行クラッチレバーを「下」位置、シフトレバーを「ニュートラル」位置にして、エンジンを停止しエンジンキーを外してから行ってください。
2.	点検は、回転部が完全に止まってから行ってください。
3.	チップナイフを扱う際は、必ず保護手袋を着用してください。
4.	取外したカバー類は元どおりに装着してください。



チップナイフの反転・交換・調整

チップナイフが切れなくなると、エンジンに負荷がかかり、チップが詰まりやすくなったり、騒音や振動が激しくなり、機械各部やベルトにも無理がかかり、寿命が著しく短くなりますので、定期的にロータカバーを開け、チップナイフに歯こぼれ、ひび等の異常がないか点検してください。

《チップナイフの反転時間の目安》

チップナイフは片面約25時間程度使用可能です。片面使用後はチップナイフの反転をしてください。両面使用後は刃の研磨をする事で再度使用する事が出来ます。

※反転時間に関しては当社の目安になります。機械の使用のしかたや刃の状態によって調整するようにしてください。なお、この期間はあくまでも目安であり、この期間内に故障しないことをお約束するものではありません。

(P77『消耗部品一覧』参照)

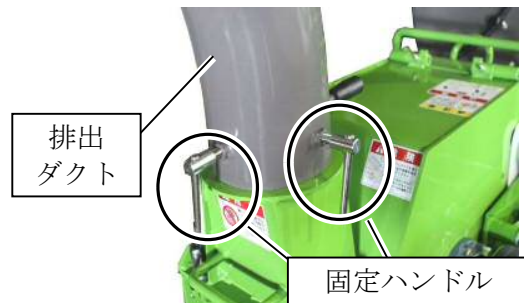
注意 1

チップナイフの研磨のご用命は、販売店へお問い合わせください。

注意 2

チップナイフの研磨の際はグラインダーでの研磨は行わないでください。ナイフ研磨については、2枚同時に専門の業者に依頼してください。ナイフのバランスが悪くなると異常振動や機械の破損の原因になります。

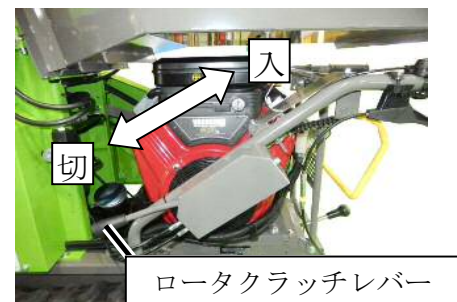
1. 排出ダクトの固定ハンドルをゆるめ、排出ダクトを取り外してください。(P28『排出ダクト』参照)



2. ロータカバーの固定ネジを緩め、ロータカバーを開けてください。

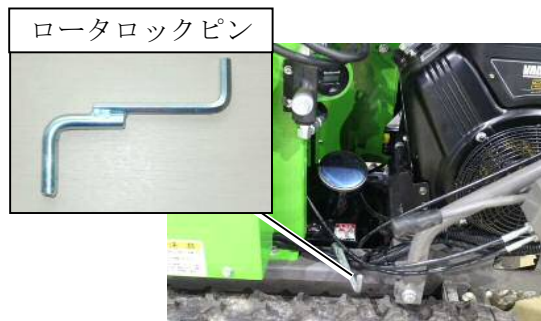


3. ロータクラッチレバーを「切」位置にしてください。



上手に運転するには (2) ～ナイフの交換手順と注意事項～

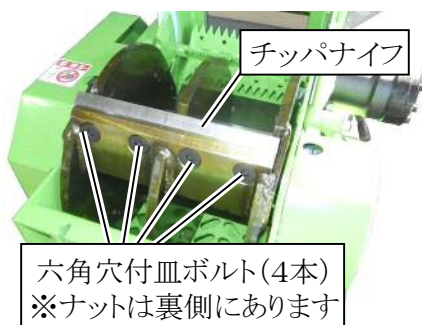
4. 投入口方向から見て左側面土台のフレームよりロータロックピンを抜き取ります。



5. ロータを回しロータロックピンが挿せる位置にしてください。ロータロックピンをロータハウジングの左右のどちらかの穴位置に差し、ロータが回らないようにロックしてください。



6. チップナイフに取り付けている六角穴付皿ボルト・ナットを緩め取り外してください。



7. チップナイフを取り外し、付着しているチップの詰り等を取り除きます。



8. チップナイフを取り外した状態で、ロータのナイフ台座と受刃の隙間調整をしてください。P 32『受刃の反転・交換・調整』の要領で行ってください。

9. ナイフ台座と受刃の調整をした後、チップナイフを取り付けます。ロータロックピンを取り付け、チップナイフを反転、または交換して取り付けてください。六角穴付皿ボルト(各4本)を2枚とも軽く締めてください。

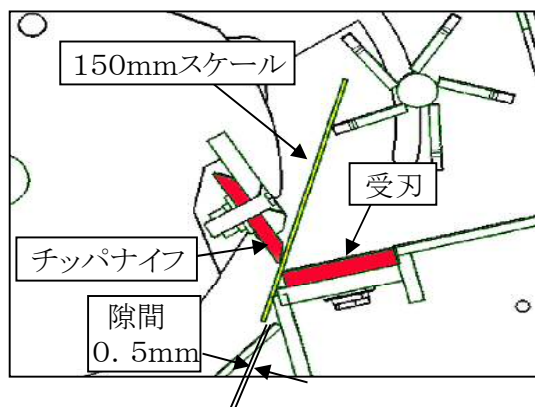


注 意

- チップナイフ取替え時(反転、研磨の際) スプリングワッシャは新品と交換してください。
- チップナイフ新品を交換の際はボルト・ナット・スプリングワッシャ・座金を新品と交換してください。
- チップナイフの反転・交換する際は必ず2枚とも反転・交換をしてください。

上手に運転するには (2) ～ナイフの交換手順と注意事項～

10. チップナイフの取り付け穴は長穴になっていますので、チップナイフの位置を動かして隙間調整をします。付属のゲージ1枚(150mmスケールの厚み)を使って受刃とチップナイフの隙間を調整してください。ロータロックピンを取り外し、手でロータをゆっくり回して、2枚のチップナイフと受刃が当たらないことと、隙間が0.5mmあることを確認してください。



11. 調整後、チップナイフの六角穴付皿ボルト(各4ヶ)を締付けトルク $110\text{N}\cdot\text{m}$ で締めてください。

注 意

チップナイフ、受刃の固定ネジは締め不足、締め忘れのないようにしてください。作業中に外れると機械が破損するばかりではなく、金属片が飛び出して大変危険です。

12. 再度手でロータをゆっくり回して受刃に当たらないこと、隙間が0.5mmあることを確認してください。



13. チップナイフの反転、または交換、調整後は、ロータロックピンとロータカバー、投入口のホッパを元に戻し、固定ネジをしっかりと締め付けてください。

注 意 1

ロータカバーの固定ネジがしっかりと締まっている事を確認し、締め忘れのないようにしてください。

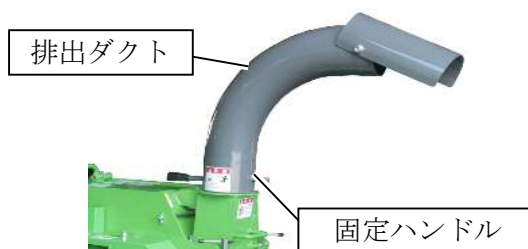


注 意 2

ホッパー固定ネジはレバーが上下方向でとまるようにしてください。上下方向でない場合、油圧ホースの動きを妨げホースが破損するおそれがあります。



14. 排出ダクトを元のおりに取り付け、固定ハンドルをしっかりと締め付けてください。



上手に運転するには (2)

シュレッダナイフの取り付け



■ シュレッダナイフを扱う際は、必ず保護手袋を着用してください。

シュレッダナイフが磨耗した場合は、シュレッダナイフを固定しているシュレッダナイフ軸を取外して、取付面を変え鋭利な刃先で材料を粉砕するようにしてください。シュレッダナイフは1枚で4角使用できます。シュレッダナイフの4角の刃先がすべて丸くなったらシュレッダナイフを交換してください。

シュレッダナイフを反転・交換する場合は、以下の要領を参考に行ってください。

《シュレッダナイフの反転時間の目安》

シュレッダナイフは1角約50時間程度使用可能です。

※反転時間に関しては当社の目安になります。機械の使用のしかたや刃の状態によって調整するようにしてください。なお、この期間はあくまでも目安であり、この期間内に故障しないことをお約束するものではありません。

(P 77 『消耗部品一覧』参照)

1. 排出ダクトの固定ハンドルをゆるめ、排出ダクトを取り外してください。(P 28 『排出ダクト』参照)
2. ロータカバーの固定ネジを緩めロータカバーを開きます。



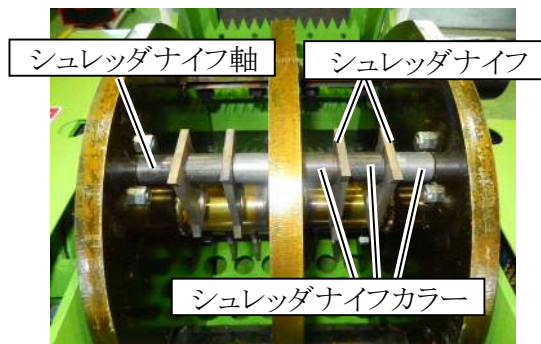
3. ロータに片側のみシュレッダナイフジクオサエを取り付け、SW付ナット(M8)で固定します。



注 意

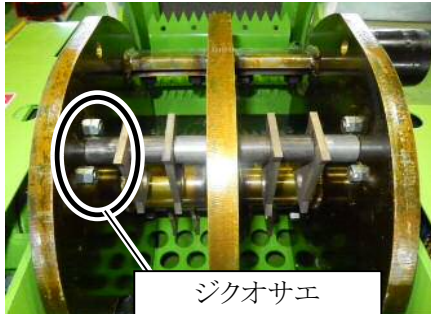
SW付ナットを固定する際は、ロータロックピンを差し、ロータが回らないようにして作業を行ってください。

4. シュレッダナイフジクオサエを取り付けた側の反対側からシュレッダナイフ軸を挿入し、下図の様に交互に取り付けます。



上手に運転するには (2)

5. 上図左側も3と同様にし、シュレッダナイフジクオサエを2と反対側に取り付けます。



6. ロータを180°回した反対側も、同様にシュレッダナイフを取り付けます。
7. ロータカバーをしめ、2の固定ネジをしっかりと締めます。

注 意

ロータカバーの固定ネジがしっかり締まっている事を確認し、締め忘れのないようにしてください。



8. 排出ダクトを元に戻し、固定ハンドルを締めてください。



上手に運転するには (2)

スクリーンの取り付け・取り外し



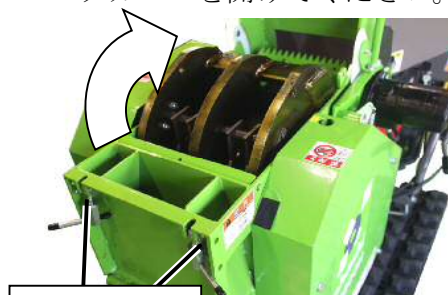
危険

※スクリーンの取り付け・取り外しを行う際は、必ずエンジンを停止させ、ロータの回転が停止していることを確認してから、作業を行ってください。



スクリーンの取り外し

1. 排出ダクトの固定ハンドルをゆるめ、排出ダクトを取り外してください。(P28『排出ダクト』参照)
2. ロータカバーの固定ネジを緩め、ロータカバーを開けてください。



3. スクリーンを引き出して、交換してください。
スクリーンを取り外す際は少し引き出した後、ロータも一緒にゆっくりと回しながら円を描くように引くとスムーズに取り外す事ができます。
スクリーンの取り付けの際も同様にゆっくりと回しながら円を描くように挿し込んでください。

注意

ロータを回転させる時はチップナイフに注意してください。



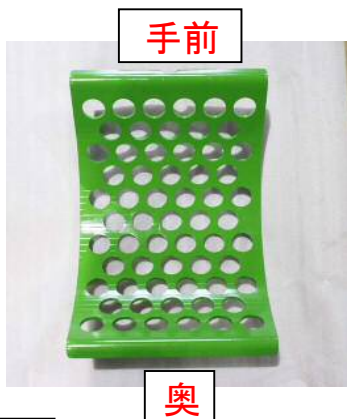
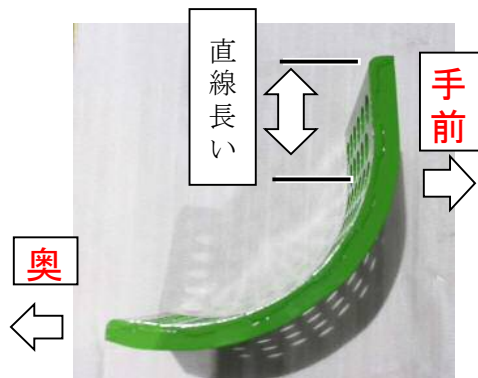
上手に運転するには (2)

スクリーンの取り付け

1. スクリーンを挿入します。



※ 取り付ける際は、スクリーンの向きに注意して取り付けをしてください。(逆に付けると、取り付けできません)



注 意

取り付ける場合は、スクリーンの先端(奥)の面とその面が当たるロータハウジングの面は付着物を除去してください。
スクリーンの手前の上面が、ロータハウジングよりはみ出し、ロータカバーがきれいに閉じられません。

2. スクリーン取付後はロータカバーを閉めて、ロータカバーの固定ネジをしっかりと締めてください。

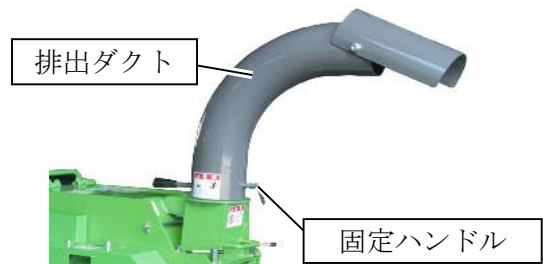
注 意

ロータカバー固定ネジの締め忘れのないようにしてください。

運転時に、ロータカバーが開き粉砕物や部品が飛び出し危険です。



3. 排出ダクトを取り付けて、排出ダクトの固定ハンドルを締めてください。



4. スクリーン押さえボルトの調整を行ってください。
(P 42『スクリーン押さえボルトの調整』参照)

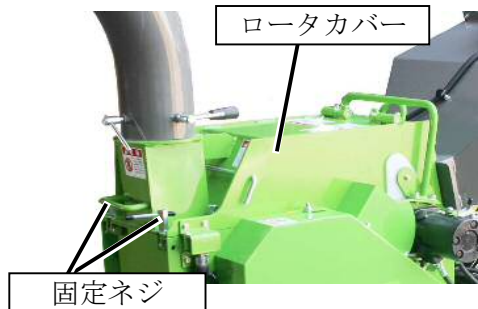
上手に運転するには (2)

スクリーン押さえボルトの調整

スクリーンの交換をした時や、エンジン稼動時にスクリーンが振動している場合はスクリーン取付ボルトの調整を行い、スクリーンを固定させてください。



1. ロータカバーを閉めて、固定ネジを閉めてください。



2. 両側のナットを緩めてください。



3. ボルトの先がスクリーンにあたるまで、ボルトを締めてください。反対側も同様に調整をしてください。



4. 調整が終わったら、両側のナットを締めてください。



注 意

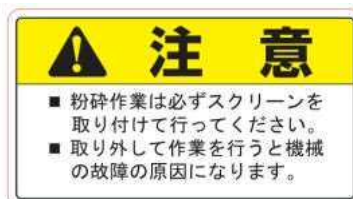
スクリーン押さえボルトを締めすぎると、スクリーンやロータカバーが変形する恐れがありますのでご注意ください。

上手に運転するには (2)

粉砕作業時の注意点

注 意
<p>1. エンジン始動前に、ロータカバーの固定ネジがしっかりと締まっている事を確認してください。</p> <p>2. エンジン始動中及びロータ回転中は正面ホップのチップガードより奥及び排出口に絶対に手をいれないでください。</p> <p>3. 短材を投入する際は、棒や角材で押し込むようにしてください。 送りローラの手前で粉砕物が滞留し取出す場合、また粉砕物のまきつきやつまりの除去をする場合は必ずエンジンを停止させ、送りローラ及びロータの回転が停止した事を確認してから処理してください。</p> <p>4. 材料を送り込む際は、材料が暴れたり、跳ね上がったたりする可能性があります。 接触してケガをしないように十分に注意をするとともに、目を保護する保護メガネ、頭部を保護するヘルメット又は作業帽等を着用して作業してください。</p> <p>5. 粉砕する材料に金属類（釘・針金・金属片など）や異物が混入していないことを確認のうえ、作業を行ってください。</p> <p>6. 粉砕作業は、 (1) シフトレバーはN（ニュートラル）位置、走行クラッチレバーは「下」位置で行ってください。 (2) スロットルレバーは「高」位置にして、フルスロットル状態で作業を行ってください。 (3) 1 Aヒューズが切れると、自動正送り制御が働かず、エンジンストップに至る場合があります。</p> <p>7. 住宅地での作業では、周りへの騒音に注意を払ってください。</p>

注 意
<p>8. 作業時、エンジン停止直後のマフラおよびその周辺は、高温のため触れないよう十分注意してください。</p> <p>9. 危険防止のために（P 1～P 4）、運転を始める前に（P 15～16）を再読してください。</p> <p>10. 粉砕作業は、必ずスクリーンを取り付けて行ってください。</p>



上手に運転するには（２）

1. つまり防止の方法

つまりの発生を防止するために、『P 4 3 粉砕作業の注意点』及び下記の事項に十分注意の上、作業を行ってください。

- (1) ロータが完全に回りだしてから粉砕作業を開始してください。
- (2) 作業時は、半クラッチやクラッチを切った状態での使用を避け、必ずロータクラッチレバーを「入」位置にして接続した状態で使用してください。
- (3) スロットルレバーは「高」位置にして、フルスロットル状態で作業してください。**エンジンの回転数が低いと送りローラが正転しません。**
- (4) ロータベルトの張り点検を行い動力が十分伝わる状態で使用してください。（エンジン及びロータが完全に止まっていることを確認の上、点検してください。）
- (5) 粉砕材料（特に枝、葉）が、雨や水に濡れている場合は、粉砕作業はできません。
- (6) 送り速度調整ダイヤルが付いている場合（オプション取付のとき）は作業条件に合わせたダイヤル調整を行ってください。

重要

葉っぱや草、幹が細く軟らかい材料ばかりを続けて粉砕していると中で詰まったり、送りローラの手前で詰まって入っていかない事があります。
なるべく幹が太い材料や堅い材料を混ぜて粉砕を行うとスムーズに粉砕できます。

重要

詰まったり引っ掛かったりした際は必ずエンジンを停止させ、回転が止まった事を確認してから除去作業を行うか、棒状の枝等で押し込んだり引き出すようにし、決してエンジン始動中に手を入れて取り除かないようにしてください。

2. 噛みこみ解除のしかた

材料が送りローラに噛みこんだままエンジンが停止した場合、『P 4 3 粉砕作業の注意点』に十分注意の上、作業を行ってください。

※ロータを回るようにして、エンジン稼働させ材料を取り出してください。

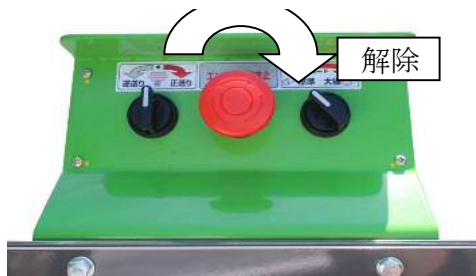
- (1) エンジンキースイッチを「OFF」にして下さい。
- (2) ロータクラッチを「切」にしてください。
- (3) 噛み込んだロータを解除してください。
- (4) ロータが手で軽く回ることを確認してください。
- (5) 送りスイッチを中立位置にしてください。
- (6) エンジンを始動してください。
- (7) スロットルレバーを「高」位置にして、エンジン回転をフルスロットルにします。
- (8) ロータクラッチを「入」にしてください。
- (9) 送りスイッチを逆転位置にしてください。
- (10) 噛み込んだ材料がホップ手前に戻ってきますので取り除いてください。

上手に運転するには (2)

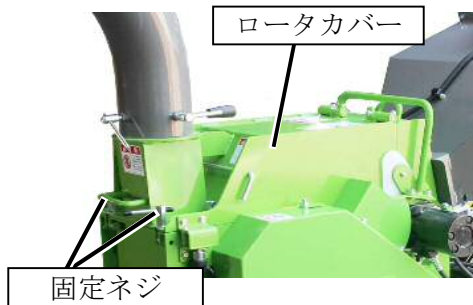
※ ロータが回らずエンジン稼働で取り除けない場合、ある程度除去してもロータが手で回らない場合は、次の方法で送りローラを逆転させて投入物を取り除いてください。

- (1) ロータクラッチを「切」にしてください。
- (2) 送りスイッチを逆転位置にしてください。
- (3) エンジン非常停止スイッチが、『解除』されている事を確認してください。

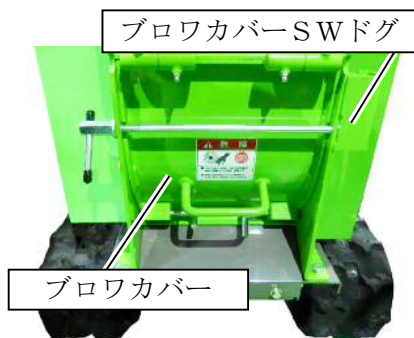
エンジン非常停止スイッチ



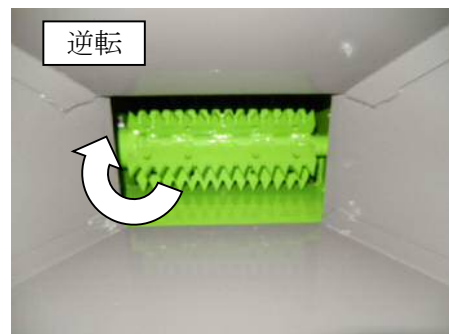
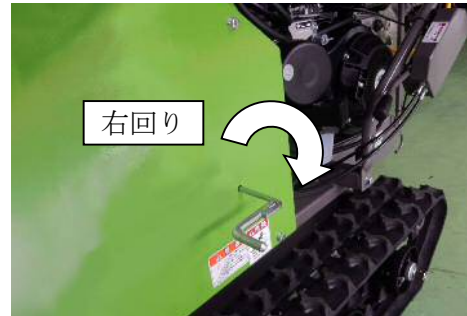
- (4) ロータカバーが閉まっている事を確認してください。



- (5) ブロワカバーが閉まっている事、ブロワカバーSWドグを取り付けしている事を確認してください。

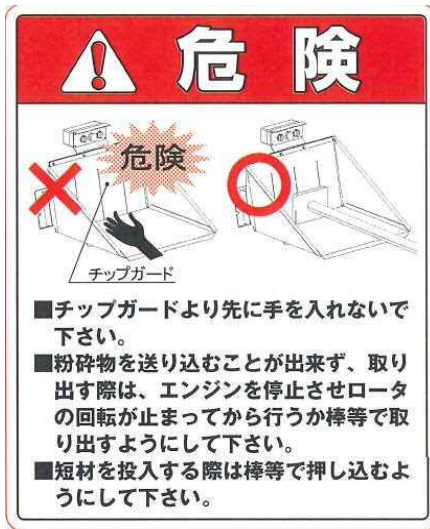


- (6) エンジンキーを『ON』位置にしてください。
- (7) 本機に付属のハンドル(ロータロックピン)を下記のように差込み時計周りに早回ししてください。送りローラが逆転をし噛み込みが解除されます。



上手に運転するには (2)

3. ひっかかりの除去



- (1) ひっかかりを除去した際に、送りローラ部が所定の位置まで下りません。フィードボックス・送りローラ取付部に直接触れないようにして下さい。
- (2) 材料等がひっかかって、送りローラ取付部がきちんと下がらない場合は、角材・棒等で押して、解除して下さい。



- (3) 停止中・運転中にかかわらず、送りローラに触れないようにして下さい。
- (4) 整備を行う時は、エンジンを停止して、送りローラ及びロータの回転が停止した事を確認して下さい。エンジンキーを取外し、送りローラにはさまれないように注意して作業して下さい。



- (5) エンジン回転中及びロータ回転中に排出口をのぞいたり手や足を入れしないでください。

定期の点検・整備をするには

調子よく作業するために、定期的に行いましょう

注 意

安全に運転するために、点検・整備を行うにあたり、次のことを厳守してください。

1. 点検・整備をする時は、ロータクラッチレバーを「切」位置にし、シフトレバーを「N（ニュートラル）」位置にして、エンジンを停止して回転部が完全に停止している事を確認してからエンジンキーを外して行ってください。
2. エンジン回転中やエンジンが熱い間は注油、給油は絶対行わないでください。
3. 燃料の取扱い時やエンジンの整備時はくわえ煙草・裸照明は絶対しないでください。
4. 操作系の点検は、一部走行試験が必要であるため、平坦で広く障害物のない安全な場所で行ってください。その際整備が必要な場合は1. 項目内容を厳守してください。
5. 取外したカバー類は元どおりに装着してください。

アワメータ

本機には、アワメータが付いています。点検・整備の時間の参考にしてください。

アワメータ



※使用状況によっては交換時間が早まる場合があります。早めの点検・整備をおすすめします。

オイル交換

オイル交換の際には次のことに注意して行ってください。

1. 古くなったオイルは、機械の性能を落とすだけでなく故障の原因となります。定期的に古いオイルを抜き取り、新しいオイルを規定量給油してください。
2. オイルの抜き取りはオイルが暖かいうちに行うと容易に抜くことができます。

注 意

作業直後は、高温のため危険です。しばらくたってから交換作業してください。熱いオイルが体にかかると火傷する恐れがありますので十分に注意してください。

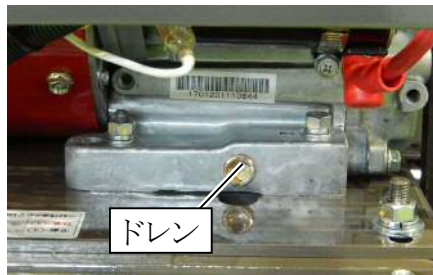
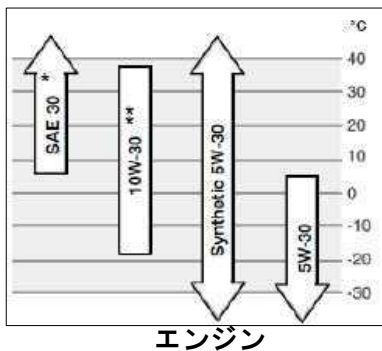
3. オイルは消費します。運転日毎に規定最大量まで補給してください。
4. エンジンオイルの質および量の低下は焼付トラブルをまねきます。オイルの品質はS F 級以上の良質のもので外気温度に応じて、純正オイル、または、自動車用エンジンオイルを使用してください。
5. マルチグレードを使用する場合、外気温が高いときオイルの消費量は増す傾向にありますので注意してください。

定期の点検・整備をするには

エンジン			
グレード・粘度	《オイルグレード》 SF, SG, SH, SJ及びこれ以上の高品質なオイル 《オイル粘度》 外気温4℃以上でSAE30番を推奨。エンジン始動時の外気温に合わせて正しい粘度のオイルを選定してください。 下表を参照して外気温に合わせてオイルを選択してください。		
	交換時間	初回 5時間 2回以降 50時間毎	規定量 1リットル

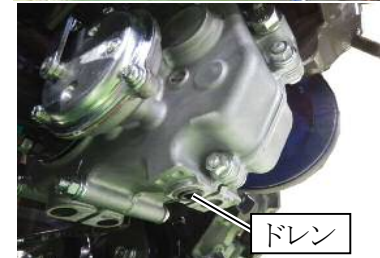
※エンジンオイルの交換は、P63『エンジン』の項をご参照ください。

※上記のオイル交換時間の目安は、粉じんが多い環境下である事を配慮し、エンジンメーカーの推奨時間より早めに設定を致しております。



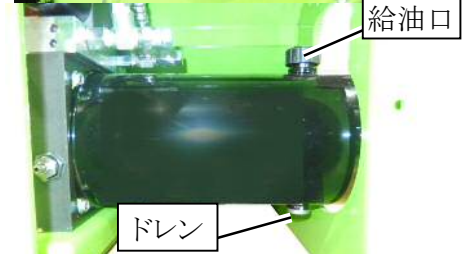
	オイル	規定量	交換時間
走行ミッション	ギヤオイル #80	0.7リットル	初回 50時間目 2回以降 200時間 毎(走行)

走行ミッション



	オイル	規定量	交換時間
パワーパック	ISO VG46 相当粘度	3リットル	300時間毎

パワーパック

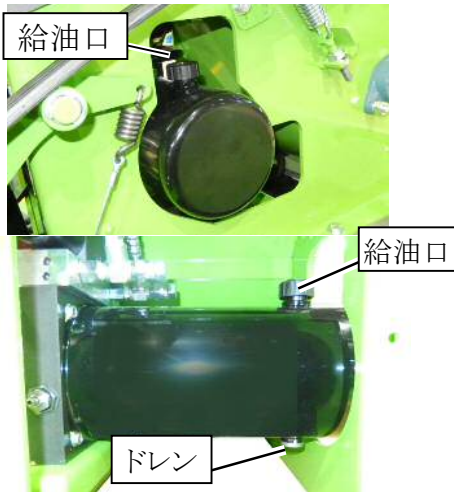


※パワーパックのオイル交換は、P49『パワーパック』の項をご参照ください。

定期の点検・整備をするには

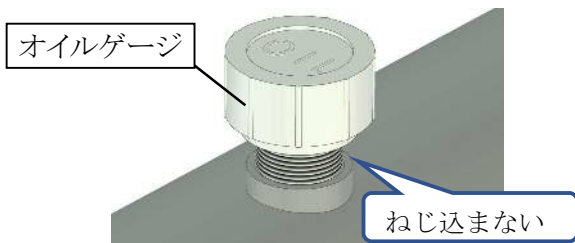
パワーパック

パワーパック

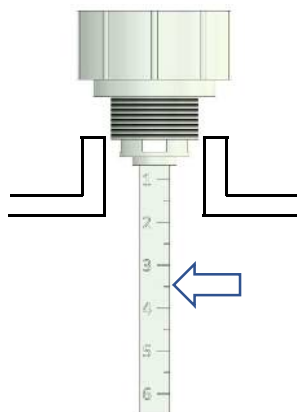


作動油の補給

1. ISO VG46相当粘度の油圧作動油を給油してください。
2. 適正量は油面がゲージの『3.5』の線の位置です。
 - (1) 機体を水平に置き、注油口からオイルゲージをねじ込まないで計測してください。



- (2) オイルゲージの『3.5』の線の位置まで給油してください。



作動油の交換

1. 作動油の交換はドレンプラグを外し作動油を全量交換してください。

注意

作業直後は、高温のため危険です。しばらくたってから交換作業してください。

- (1) パワーパック裏側のドレンプラグを外して作動油を抜き取ります。
- (2) ドレンプラグは排油後古いシールテープを取ってきれいに洗浄し、新しいシールテープを巻いて締めてください。
2. 必ず新しいオイルを使用し、泥およびゴミがタンク内に入らないように給油してください。
3. パワーパックへの直接の散水洗浄は避け圧縮空気やブラシ・布などで泥土・ほこり・草屑等を落としてください。
4. 気温が0℃以下の場合は5分程度暖気運転を行ってください。

※パワーパックのオイル交換時間・量はP47-48『オイル交換』の項をご参照

定期の点検・整備をするには

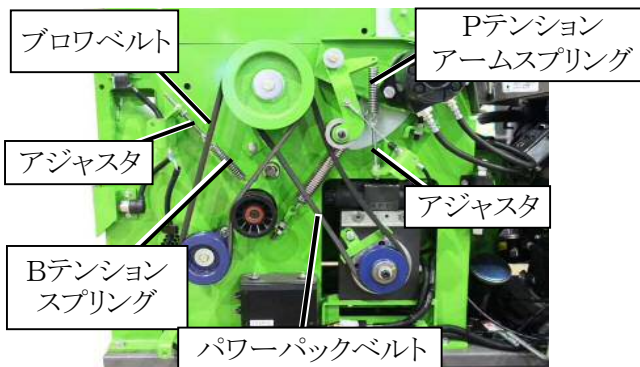
パワーパックのベルトの交換 及び張り調整

1. ベルトの張り調整

機械を長期間使用することにより、ベルトの伸びが発生することがあります。ベルトが空回りしないよう、ベルトの張り調整は定期的に行ってください。

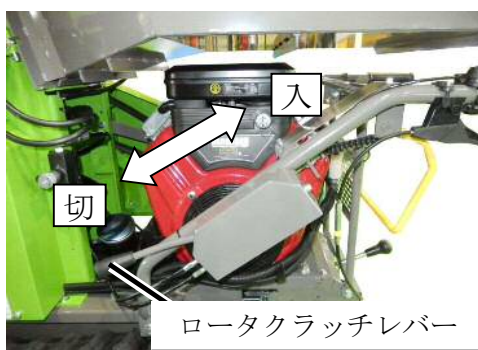
ベルトの張り調整の方法は 2. ベルトの交換及び張り調整 の要領で行ってください。

2. ベルト交換及び張り調整



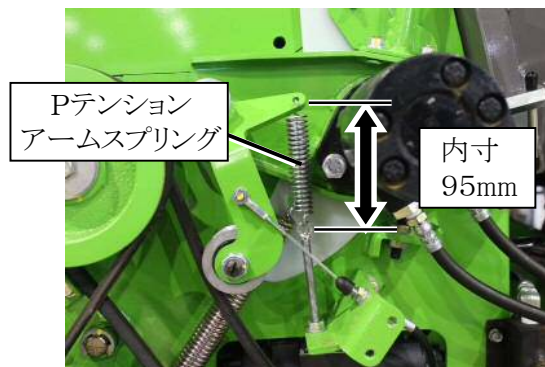
1. ロータクラッチレバーを『切』位置にしてください。

ロータクラッチレバー

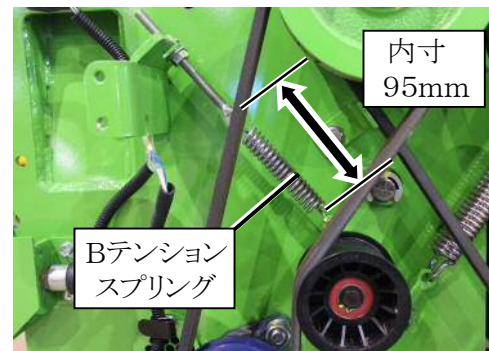


2. Bテンションスプリングのアジャスタを緩めて、ブロワベルト(SA-41・2本)を取り外してください。
3. Pテンションアームスプリングのアジャスタを緩めて、パワーパックベルト(SB-43)を取り外してください。

4. 新しいベルトを取り付けてください。パワーパックベルトを取り付けた後、ブロワベルト(2本)を取り付けてください。
5. Pテンションアームスプリングのアジャスタを取り付けてください。
6. ロータクラッチレバーを『入』位置にしてください。
7. Pテンションアームスプリングの長さが写真のようになるまで張ってください。



8. Bテンションアームスプリングの長さが写真のようになるまで張ってください。



※ ベルトの品番はP77『消耗部品一覧』を参照してください。

定期の点検・整備をするには

油圧ホース

機械を使用する前に、油圧ホースとパイプのラインをチェックし、切れ・接続部のゆるみ・ねじれ・磨耗の有無を調べてください。

使用頻度に関わらず、油圧ホースは2年毎で交換してください。

危険

1. エンジン回転中はホース・パイプ・口金具・継手に手をかざして漏れのチェックや点検をしないでください。
2. 高圧で吹き出すオイルは皮膚を突き破るのに十分な勢いを持っていて危険です。
3. ホースやパイプは他のフレーム部分に接触させないで下さい。接触させると摩擦により磨耗します。
4. 切れたり、磨耗したホースやパイプは機械の使用前に必ず交換してください。
5. 接続部のゆるみやホース交換・整備でねじれたホースは機械の運転前に必ず直してください。
6. ねじれを直すには、ホース金具の固定部分を1本のスパナで押え、もう1本のスパナでホースナットをゆるめます。次にホースのねじれを直しホース口金具側のスパナは固定したまま、ホースナット側のスパナを回して締付けてください。
7. アセンブリホース、他継手器具は次表の推奨締付トルクを参照の上、適正な締付けを行ってください。アセンブリホース接続金具交差は±10%程度です。このトルクはネジ部に油付着が無い場合です。

金具の 締付トルク	1 / 4	24 (N・m)
●交差は、±10%程度です。 ●このトルクはネジ部に油付着がない場合です。		

走行クラッチ

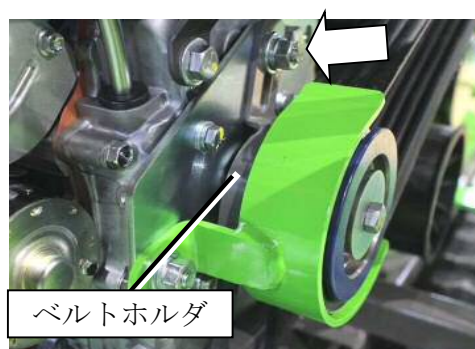
警告

走行クラッチの入・切があまいと本機の走行や停止の作動に支障をきたす恐れがあり大変危険です。

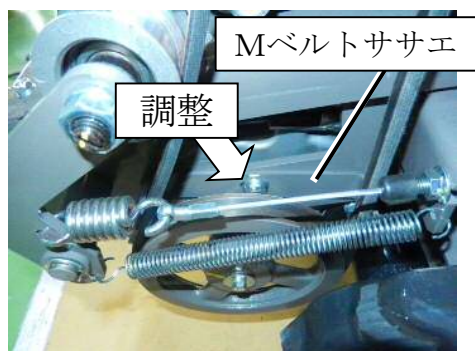
走行や停止の作動に異常を感じたときには即座に下記の調整を行い、常に安全を心掛けるようにしてください。

走行クラッチの調整

1. 走行クラッチレバーを「上」位置にして下さい。（走行クラッチが入ります）
2. サイドカバーE1、サイドカバーE2を固定しているM8のボルト（5本）を緩め、外します。
3. 走行ベルトの張りが弱い場合、ワイヤアジャスタを伸ばして調整します。調整後ロックしてください。
4. 走行クラッチレバーを「下」位置（走行クラッチが切れず）にしてエンジン始動の要領でエンジンを始動し、走行ベルトクラッチが確実に切れることを確認してください。
5. 走行ベルトクラッチが切れない場合は、ベルトホルダの調整を行ってください。



定期の点検・整備をするには



6. 走行クラッチベルトの張りがワイヤアジャスタで張れなくなった場合は、新品のベルトと交換してください。

※ ベルト型番は **P 7 7** 『消耗部品一覧』を参照してください。

駐車ブレーキ

警告 1

ブレーキの効きが甘いと非常に危険です。逆にブレーキを引きずると本機故障の原因となりますので、ブレーキの利き方に異常を感じたときには即座に下記の調整を行い、常に安全を心掛けるようにしてください。

1. 駐車ブレーキワイヤアジャスタ調整

- (1) 走行クラッチレバーを「下」位置（駐車ブレーキが掛かります）にして、駐車ブレーキワイヤが張っているか確認します。（先端のスプリングがわずかに伸びます）
- (2) 張りが弱い場合は、ワイヤアジャスタを伸ばして調整します。
- (3) 走行クラッチレバーを「入」位置にし、駐車ブレーキワイヤがたるんでいることを確認して下さい。張っている場合は、駐車ブレーキワイヤアジャスタの張りすぎです。再調整します。

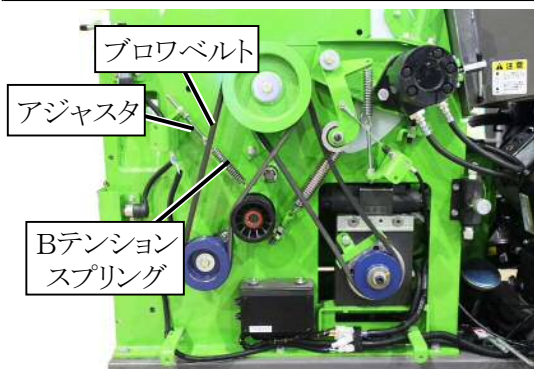
2. 駐車ブレーキシューの点検と交換

駐車ブレーキの点検は3ヶ月毎に行ってください。

- (1) シューの使用限度厚みは **1.5mm** ですが、2mm以下の場合は新品と交換してください。新品との交換が済むまで機械の使用を控えてください。
- (2) 駐車ブレーキの効きが甘い場合やシューが焼けている場合は、シューの厚みが使用限度内であっても、新品と交換してください。その他、ドラムの磨耗、変形、大きなキズ、ひび割れスプリングの破損やへたり、カムレバー（走行ミッションの駐車ブレーキアーム）のカム磨耗などがある場合は新品と交換してください。
- (3) シュー交換後に、**駐車ブレーキレバー引代調整**を行ってください。
- (4) ブレーキが引きずる場合、(3)と同じ要領でワイヤを緩む方向に動かします。
- (5) 走行ミッション側だけのアジャスタ量だけで不足の時はレバー側のワイヤアジャスタも動かして調整してください。調整後は、ロックナットを確実に締め付けてください。
- (6) 駐車ブレーキワイヤアジャスタの調整代がなくなった場合は、駐車ブレーキワイヤを交換し駐車ブレーキレバーの引代調整を行ってください。また、シューの磨耗が大きいと考えられますので、走行ミッションのシューの点検を行ってください。

定期の点検・整備をするには

ブロワベルト



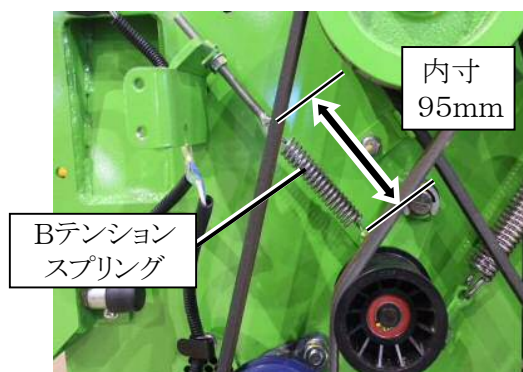
1. ブロワベルトの初期のびの張り調整

10時間程度機械を使用後にブロワベルトの張りの調整をしてください。

張りの調整方法は「2. ブロワベルトの交換及び張り調整」の要領で行ってください。

2. ブロワベルトの交換及び張り調整

1. Bテンションスプリングのアジャスタを緩めて、ブロワベルト(SA-41・2本)を取り外してください。
2. 新しいブロワベルトを取り付けてください。
3. ブロワベルト(2本)を取り付け、Bテンションスプリングの長さが写真のようになるまで張ってください。



※ 張った時のスプリングの長さはあくまで参考値です。

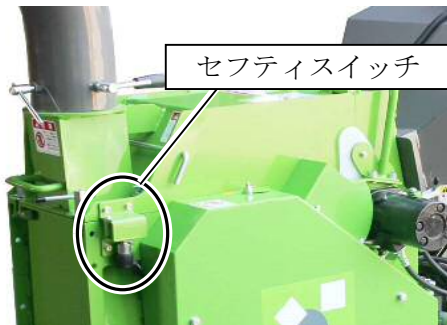
※ ベルト品番は **P 7 7** 『消耗部品一覧』を参照してください。

定期の点検・整備をするには

セフティスイッチの調整

1. ロータカバーのセフティスイッチの調整

ロータカバーを閉めた時に、セフティスイッチの先端が見えている場合はセフティスイッチの位置調整を行ってください。



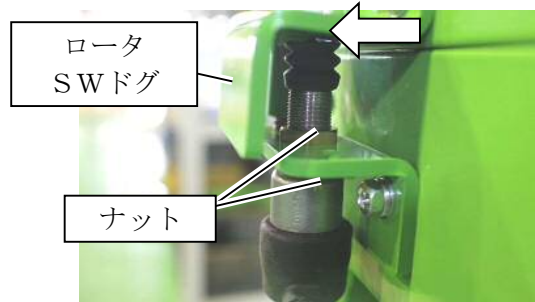
(1) ロータカバーの固定ネジをしっかりと締めてください。



(2) セフティスイッチのナットを緩めてください。



(3) ロータカバーを閉めたときにセフティスイッチ先端が見えなくなるように調整してください。(下記写真、矢印部分)



(4) 調節後、セフティスイッチのナットを締めてください。

(5) ロータカバー固定ネジを緩め、ロータカバーの隙間が5 mm程度開いている事を確認してください。



(6) ロータカバーが隙間がある時、セフティスイッチの先端が見えるか確認してください。(下記矢印部分)



定期の点検・整備をするには

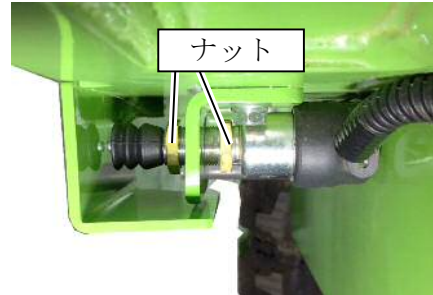
2. ブロワカバーのセフティスイッチの調整



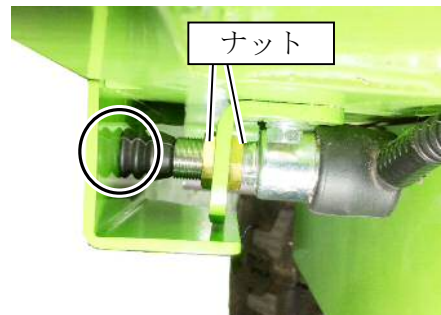
ブロワカバーSWドグ、平座金、固定ネジ
が取り付けられている時に、セフティスイッチ
の先端が見えている場合は、セフティス
イッチの位置調整を行ってください。



- (1) セフティスイッチのナットを緩めて
ください。

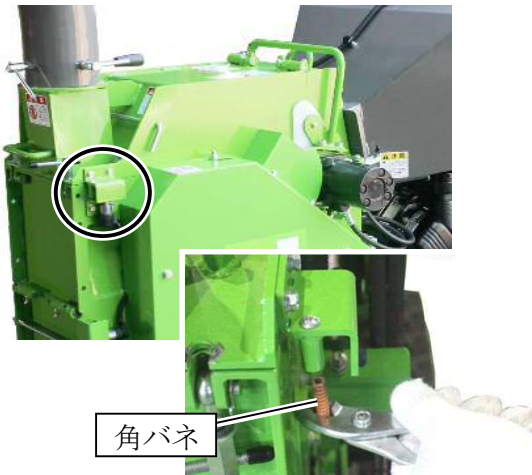


- (2) セフティスイッチの先端（下記写
真丸印部分）が見えなくなるよう
に調節してください。調節後ナツ
トを締めてください。



定期の点検・整備をするには

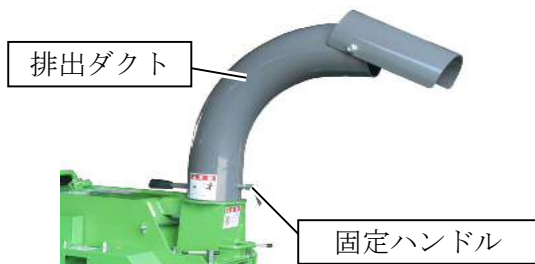
角バネの交換



ロータカバーの固定ネジを緩めても隙間（下記写真丸印部分の隙間）ができなくなってきた時、（バネがへたっている時）は角バネの交換を行ってください。



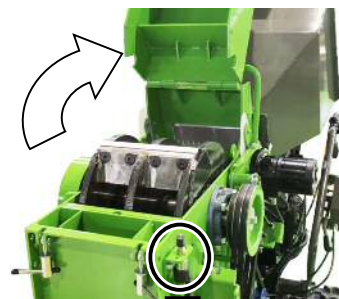
1. 排出ダクトを取り外してください。
（P28『排出ダクト』の『ロータカバーを開ける時』参照）



2. サイドカバーLを取り外してください。



3. ロータカバーを開き、ロータスイッチブラケットを取り外してください。



拡大

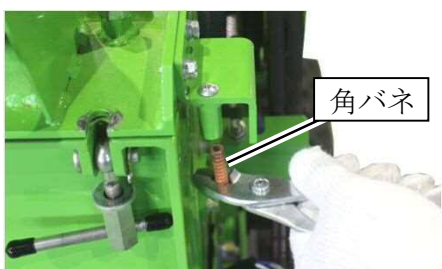
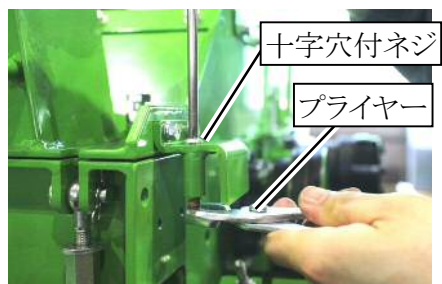
ロータスイッチ
ブラケット

4. ロータカバーを閉めてください。

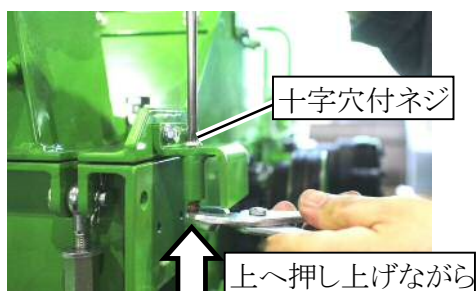


定期の点検・整備をするには

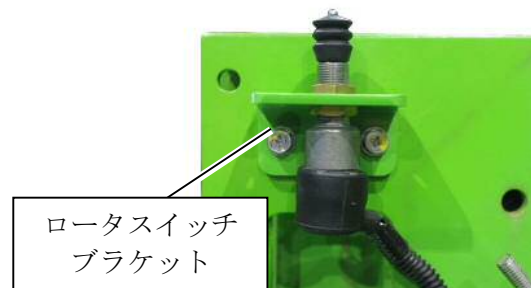
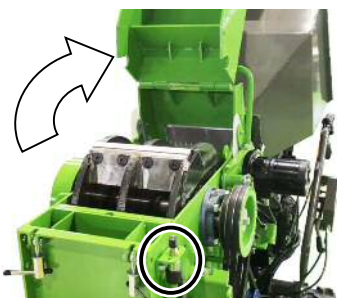
5. プライヤーでバネをはさんで固定し、十字穴付ネジを緩めて、角バネを取り外してください。



6. 新しい角バネを挿し込み、プライヤーで角バネを挟み、上へ押し上げながら、十字穴付ねじを差し込み、締め付けする。



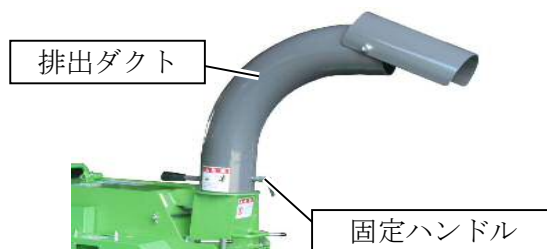
7. ロータカバーを開き、ロータスイッチブラケットを取り付けしてください。



8. ロータカバーを閉めてください。



9. 排出ダクトを取り付けてください。



10. サイドカバーLを取り付けてください。



定期の点検・整備をするには

サイドクラッチ

サイドクラッチワイヤが伸びて、効きがあまくなった場合、又は旋回がスムーズに行えない場合には、サイドクラッチワイヤのアジャスタを下記の要領で調整してください。

サイドクラッチの調整

- (1) サイドクラッチワイヤのアジャスタのロックナットを緩めます。
- (2) エンジンをエンジン始動の要領で始動し、ワイヤアジャスタを少し伸ばします。サイドクラッチレバーを「上」位置にし、走行させ左右のサイドクラッチの「切」「入」を確認しながら、ワイヤアジャスタを少しずつ調整してください。
- (3) サイドクラッチレバーの戻りが悪い場合は、アジャスタをロッドが伸びる方向へサイドクラッチの切れが悪い場合は、アジャスタをロッドが縮む方向へ回してください。
- (4) 調整後は、ロックナットを確実に締め付けてください。

ロータクラッチ

ロータベルトが伸びるとベルトの張りが弱くなり、駆動力の伝達能力の低下やベルトの早期磨耗を引き起こす原因となりますので、定期的に点検・調整を行ってください。

1. ロータクラッチワイヤの張り調整

- (1) ロータクラッチワイヤのアジャスタのロックナットを緩めてください。
- (2) ロータベルトの張りが弱い場合、ワイヤアジャスタを動かし、ワイヤが伸びる方向へ調整し、ロータクラッチレバー「入」位置で、テンションプーリの反対側のベルト中央を指で軽く押さえたときのたわみ量が10～15mmになり、「切」位置で確実にベルトが切れるようにしてください。

2. ロータベルトの張り直し

ロータクラッチレバー「入」位置で、ロータクラッチワイヤアジャスタの調整代がなくなった場合は、次の手順でベルトを張り直してください。

- (1) ロータクラッチレバーを「切」位置にしてください。
- (2) ロータクラッチワイヤのアジャスタをベルトの張りが弱くなる方向にネジ部いっぱい動かしてください。
- (3) エンジンベースを固定しているM10の固定ナット（4ヶ）を緩めてください。
- (4) エンジンをベルトが張る方向へ動かし、ロータベルトをエンジン側に軽く引いてエンジンプーリとベルトのすきまが2～3mmになるよう調整し、エンジンの固定ナットを締め付けてください。
- (5) **1. ロータクラッチワイヤの張り調整の要領**でロータクラッチワイヤの張り調整を行い、ベルト支エの位置調整を行ってロータクラッチレバー「切」位置で確実にベルトがきれるようにしてください。

定期の点検・整備をするには

3. ロータベルトの交換

ロータクラッチレバー「入」位置で、ロータクラッチワイヤアジャスタの調整代がなくなった場合や、ベルトが摩耗やほつれたりした場合は、次の方法で新しいベルトと交換してください。

※ ベルト型番はP 7 7『消耗部品一覧』を参照してください。

- (1) ロータクラッチレバーを「切」位置にしてください。
- (2) サイドカバーR、サイドカバーE 1、サイドカバーE 2を外してください。
- (3) ロータクラッチワイヤのアジャスタをベルトの張りが弱くなる方向にネジ部いっぱい動かしてください。
- (4) エンジンを固定しているM 1 0の固定ナット（4ヶ）を緩めてください。
- (5) Rベルトホルダを固定しているM 1 0の固定ボルトを外し、Rベルトホルダを外してください。
- (6) 古いロータベルトをエンジンプーリ側から外し、新しいロータベルトをロータプーリ側から取り付けます。
- (7) **2. ロータベルトの張り直しの要領**でロータベルトの張り調整を行ってください。

4. ロータクラッチの「切」の確認

調整が終わったらロータクラッチレバーを「切」位置にしたとき、ベルトのつき回りがいいことを確認してください。

- (1) サイドカバーRは取り付けず、ロータクラッチレバーを「切」位置にしてください。
- (2) エンジンを始動させ（P 1 7『エンジン始動のしかた』参照）スロットルレバーを「高」位置にしてエンジンをフルスロットルにします。
- (3) ロータクラッチレバーを除々に「入」位置にしてください。

- (4) ロータクラッチレバーを、ゆっくり操作し「入」位置、「切」位置を繰り返し、確実に、ロータクラッチが切れることを確認してください。
- (5) ロータクラッチが切れなかった場合は、エンジンを停止し、燃料コックを「閉」位置にして、ロータベルトのワイヤアジャスタでベルトの張り具合と各ベルト支エの位置を再調整して、確認作業を行ってください。
- (6) 調整が終わったら、サイドカバーRを元どおりに装着してください。

注 意

ベルトの装着方向は、プーリの回転方向でベルトの印刷文字の頭がくるようにしてください。逆にすると、寿命が短くなります。

定期の点検・整備をするには

クローラ

クローラは新品時には初期伸びが、使用時間の経過とともに sprocket とのなじみによる緩みが生じてきますので、常に点検・整備を行い正常な状態を保つとともに、異常が確認された場合、次の要領でクローラの張りを調整してください。

1. 車体を水平な場所に置きます。
2. ジャッキアップ等して片側のクローラを地面から平行に浮かせます。

注意

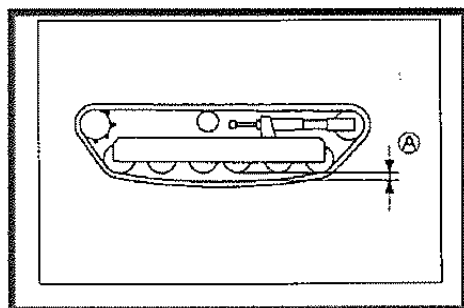
ジャッキ等が外れないように十分注意してください。

3. クローラ張りボルトのロックナットを緩めます。

クローラ張りボルト



4. クローラ張りボルトを回して、クローラと転輪の隙間（図中A）が10～15mm程度（転輪が水平な状態で）になるよう調整します。



5. 調整後、ロックナットを締め付けます。

注意 1

クローラは最初の10～20時間で必ず張りの調整をしてください。

注意 2

左右のクローラの張りが異なると、直進性が悪くなりますので左右同じように張ってください。

注意 3

クローラが緩んだ状態で使用しますとクローラ外れや sprocket のかみ合い不良を起こし、クローラが張り過ぎた状態で使用しますと駆動各部の転がり摩擦抵抗の増大および抵抗の増大を招き、クローラの寿命を著しく縮めたり、走行力の低下を引き起こしますので定期的に点検し、調整を行ってください。

定期の点検・整備をするには

バッテリー

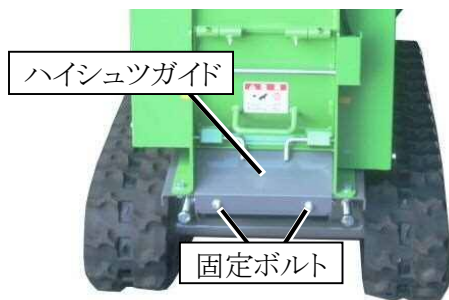
注 意

1. バッテリーの電解液が手・皮膚・衣服についたときは、速やかに多量の水で洗い流してください。
2. バッテリーの電解液が目に入ったときは、直ちに多量の水で約15分間洗眼したのち、速やかに病院で治療を受けてください。
3. バッテリーメーカーの取扱い説明書を全部読んで十分理解してから、点検・保守を行ってください。

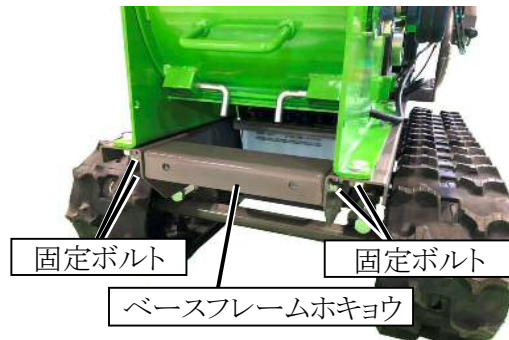
バッテリーメーカーの取扱い説明書を全部読んで十分理解してから、点検・保守を行ってください。

バッテリーの点検・保守をするには、下記の要領でガイド板とベースフレームホキョウを取り外して作業してください。

- (1) エンジンを停止し、プロワ回転が停止している事を確認してください。
- (2) 固定ボルト2本を取り外し、ハイシュツガイドを取り外してください。



- (3) 固定ボルト4本を取り外し、ベースフレームホキョウを取り外してください。



取り外し後



- (4) バッテリーの保守・点検を行ってください。

1. バッテリーの保守

バッテリーの保守作業はエンジンを停止しエンジンキーを外してから行ってください。

- (1) バッテリーの仕様は、**34A19RT**です。
- (2) バッテリーを取付けるとき、または取り外すときは、プラスおよびマイナスの端子が、機械の金属のパーツと同時に接触することがないように注意してください。

同時接触があると、大きな損傷をひき起こします。バッテリーの保守の作業をするときはいつでも、“アース”ケーブル(-)を最後に接続し、取り外すときは最初に取り外してください。

- (3) バッテリーの接続部は常に、きれいに保ち、かつ締めておいてください。ケーブルが緩んでいるとバッテリーの不具合を起こす事があります。端子のカバーは、正しい位置に付けてください。
- (4) 清掃は水で湿らした布を使用し、乾いた布等は使用しないでください。

定期の点検・整備をするには

- (5) スチール・ウールを使って、ターミナル接続部の表面を磨いてください。
- (6) ターミナルとケーブルの端に、腐食を防ぐため、シリコン誘電グリースをうすく塗ってください。
- (7) バッテリ・ターミナルにケーブルをしっかり締めてください。
- (8) バッテリの電解液量が不足している場合はUPPERラインまで精製水を補給してください。

2. バッテリの補充電

バッテリーの補充電は、バッテリーの全項を参照、またバッテリーメーカーの取扱説明書を参照して行ってください。

- (1) 充電の前にバッテリーを機械から外してください。
- (2) 充電は風通しのよいところで行い、火気類を近づけないでください。
- (3) チャージャが「オフ」になっているかを確認してください。
- (4) チャージャ・リードをバッテリーへつないでください。チャージャからのプラスのコネクタを、プラスのバッテリー・ターミナルへつないでください。チャージャのマイナスコネクタを、マイナスのバッテリー・ターミナルへつないでください。

危 険

ケガを防ぐため、チャージャを「オン」にしたときは、バッテリーから十分距離をおいて離れること。
バッテリーが損傷していたり、内部でショートを起こしたバッテリーは、爆発することがあります。

- (5) 各セルの液口栓を外してください。
- (6) 充電は下記のいずれかの方法で行います。チャージャについてのメーカーの指示図に従ってください。

- * スタータが回らないような場合は、急速充電はしないでください。
- * 完全充電時の電解液比重は1.280 / 20° cです。

普通充電	急速充電
14時間@2amps 8時間@3.5amps	2. 5時間@14amps 1. 5時間@23amps 1 時間@35amps
40C以下で充電	50C以下で充電

- (7) バッテリ充電のときに、ひどくガスが出たり、電解液が吹き出したり、バッテリーのケースが熱く感じられたらバッテリーの損傷を防ぐためアンペアを減ずるか、または補充電を一時的にやめてください。
- (8) バッテリからチャージャ・リードを取外す前に、必ずチャージャを「オフ」にしてください。

3. バッテリの交換

バッテリーが充電直後もエンジンスタータモータの回転音が、いつもより低くて弱い場合は、バッテリー交換の時期です。新しいバッテリーと交換して下さい。バッテリー交換は、バッテリーの保守の手順で行ってください。

注 意

バッテリー交換は必ずエンジンを止めて作業してください。

定期の点検・整備をするには

エンジン

エンジンメーカーの取扱説明書を全部読んで十分理解してから、点検・保守を行ってください。

1. エンジンオイルの交換

* P 4 7 「オイル交換」の項参照

《エンジンオイルの交換》

初 回 5時間運転後に交換
2回目以降 50時間運転毎に交換

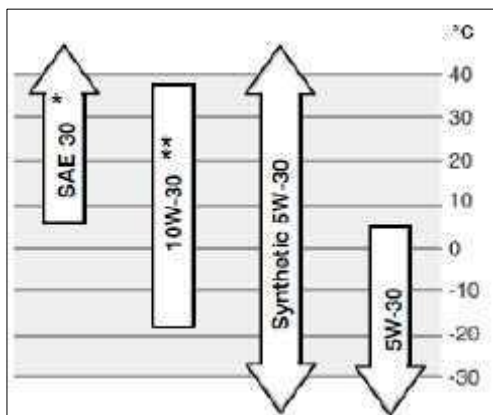
《推奨オイル》

SF, SG, SH, SJ及びこれ以上の高品質なオイルを使用してください。
エンジン始動時の外気温に合わせて正しい粘度のオイルを選定してください。
下表を参照して外気温に合わせてオイルを選択してください。

※ 上記のオイル交換時間の目安は、粉じんが多い環境下である事を配慮し、エンジンメーカーの推奨時間より早めに設定を致しております。

注意

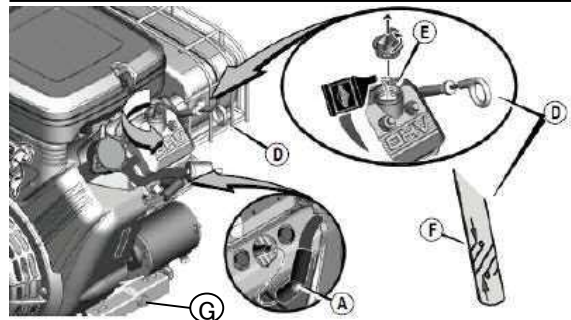
熱いオイルが体にかかると火傷する恐れがありますので十分に注意してください。



※ 外気温4°C以下でSAE30のオイルを使用すると始動不良となります。

※※ 外気温27°C以上で10W-30を使用した場合、オイル消費が多くなります。オイル点検はこまめに行ってください。

エンジンオイルの抜き取り

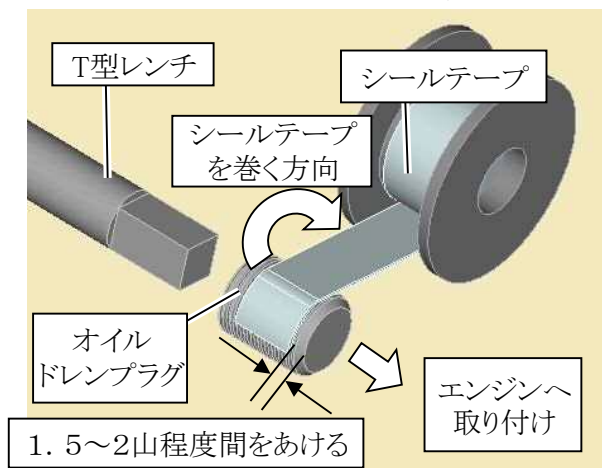


- (1) エンジンを停止し、エンジンキーを取り外してください。
- (2) オイルドレンプラグ (G) を取り外して、オイルを受け皿に流します。オイルゲージ (D) を外しておくとも早く抜けます。
- (3) オイルドレンプラグ (G) に巻かれているシールテープを取り除き、新たにシールテープを巻きます。

※時計周りに2周半～3周程度巻いてください。(下図参照)

※シールテープを巻かずに取り付けしたり、巻き方不良の場合、油漏れの原因となります。

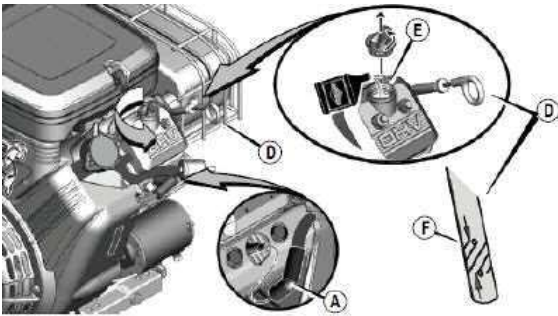
《シールテープの巻き方》



- (4) オイルを抜き終わったら、オイルドレンプラグを取り付けます。

定期の点検・整備をするには

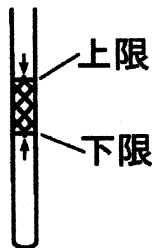
エンジンオイルの補充



注意

- エンジン水平とします。
オイル注入口付近の汚れをふき取ります。

- オイルゲージ(D)を外し、きれいな布でふき取ります。
- エンジンオイル(E)を先ず、1.0リッターゆっくりと入れます。入れすぎない事。オイルを注入後、約1分待ちオイルレベルを確認します。
- オイルゲージ(D)を取り付けます。
- オイルゲージ(D)を外してオイルレベルを確認します。オイルゲージ上限と下限の間の位置にあることを確認します。過不足分を確認し、オイル量の調整をしてください。

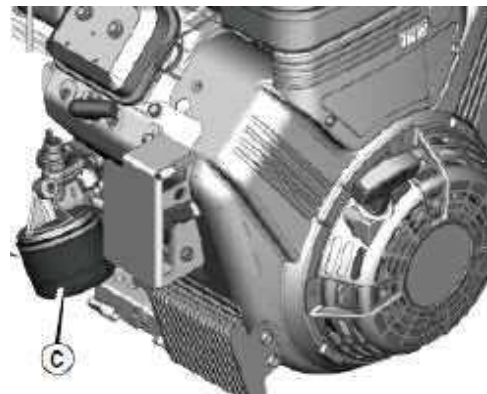


- オイルゲージを取り付け、締め付けます。
- 一度エンジンを運転し、停止した後にオイル量を確認してください。

注意

オイルゲージの上限、下限以外での使用はしないでください。
エンジンオイルは多くても少なくてもエンジン不調の原因となります。
オイル量が多いとエアフィルタ内側がオイルで汚れ、黒煙が出る場合があります。フィルタが汚れた場合は、フィルタ交換が必要です。

2. エンジンオイルフィルタの交換



エンジンオイルフィルタ
(品番：842921)

初回のオイル交換(5時間)ではオイルフィルタの交換は推奨しておりません。
2回目以降のオイル交換の際に、100時間毎に交換をしてください。

使用時間が年100時間に満たない場合は、年に1度交換をしてください。

- オイルを抜き取ります。
※P63「エンジンオイルの抜き取り」の項参照
 - オイルフィルタ(C)を外してください。
 - 新しいオイルフィルタを取り付ける前に、ガスケット部にきれいなオイルを塗布してください。
 - オイルフィルタをガスケットがアダプタに当たるまで手で締め、さらに工具で1/2から3/4回転回します。
 - オイルを注入します。
オイルフィルターを交換の際は100ccプラスして(1.1L)注入してください。
- ※「エンジンオイルの補充」の項参照
- エンジンを停止してオイルレベルを確認します。オイルゲージの上限と下限の間の位置(『エンジンオイルの補充』図(4))にあることを確認し、不足していれば補充します。

定期の点検・整備をするには

3. 点火プラグの清掃と調整と交換

- (1) プラグがカーボンで汚れている場合は、プラグクリーナまたはワイヤブラシ等で汚れを落としてください。
- (2) 電極間隙の広い場合は側方電極を曲げて0.6～0.7mmに調整してください。
- (3) 点火プラグの掃除と電極間隙を調整し、それでもエンジンがかからない場合は新しい点火プラグと交換してください。

品番： 491

品名： チャンピオン XC92YC

- (4) 交換や調整後は、点火プラグを元の位置に締付けプラグキャップを確実に差し込んでください。

※ 点火プラグの交換は100時間毎に交換をして下さい。(P77『消耗部品一覧』の項参照)

4. 燃料フィルタの交換

燃料フィルタの交換は400時間もしくは1年毎の、どちらか早い方の時間で交換をして下さい。(P77『消耗部品一覧』の項参照)

危険 火気厳禁



- (1) クランプ (C) のタブ (B) をプライヤでつまみ、フィルタから離す方向にずらします。燃料ホース (D) を燃料フィルタから外します。
- (2) 燃料ホースにクラックや漏れが無いかを確認して、必要であれば交換してください。
- (3) 燃料フィルタ (A) をオリジナルの部品と同じ部品に交換します。
- (4) 燃料ホースとフィルタのクランプを図のように取り付けます。

定期の点検・整備をするには

5. エアクリーナの清掃

空気中の塵埃を取り除き、エンジンにきれいな空気を供給するエアクリーナエレメントの汚れがひどい時は、エンジンの始動不良、出力不足、運転の不調をきたすばかりでなく、エンジンの寿命を極端に短くします。

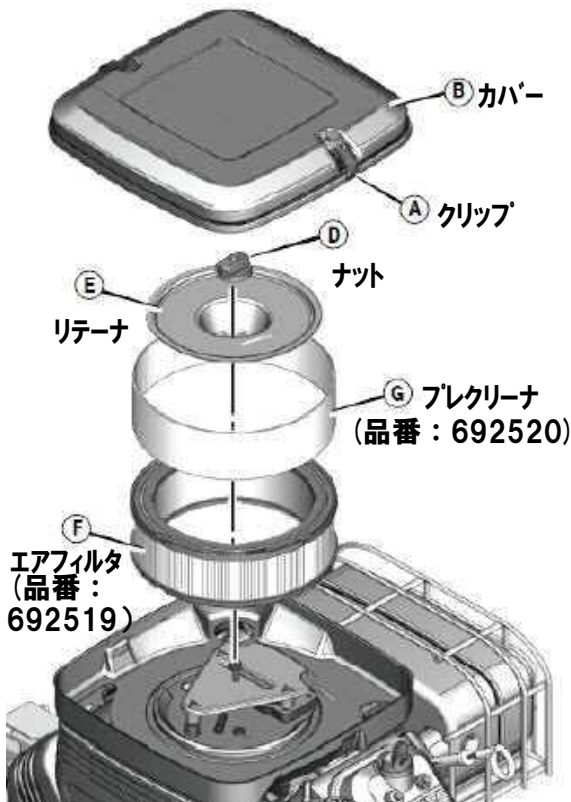
いつもきれいなエアクリーナエレメントにしておくよう心掛けてください。

エアクリーナペーパーエレメント及びプレクリーナは200時間ごとに交換をしてください。(P77『消耗部品一覧』の項参照)

※上記の交換時間の目安は、粉じんが多い環境下である事を配慮し、エンジンメーカーの推奨時間より早めに設定を致しております。

危険 火気厳禁

- (1) エアクリーナエレメントの汚れがひどいときは、以下の要領で清掃してください。



- ① クリップ (A)を外しカバー (B)を外します。
- ② ナット (D)を外し、リテーナ (E)を外します。
- ③ エアフィルタ (F)を外します。
- ④ プレクリーナ (G)を、エアフィルタから外します。
- ⑤ ゴミを取り除き、エアフィルタは圧縮空気を吹き付けるか、平らな面で軽く叩き汚れを落とします。汚れが著しい場合は新品と交換をしてください。
- ⑥ プレクリーナは線浄水で洗い、乾燥させます。オイルは含ませないでください。
- ⑦ 乾燥したプレクリーナとエアフィルタをエンジンベースに取り付けます。
- ⑧ リテーナとナットを取り付けます。
- ⑨ カバーを取り付けます。

定期の点検・整備をするには

6. 燃料パイプの交換

危険 火気厳禁

- (1) 使用頻度に関わらず、燃料パイプは**2年毎**で交換してください。燃料漏れは引火する危険があります。
- (2) 点検時、パイプにキズやヒビ等の損傷、燃料漏れ等のあるものは即交換してください。

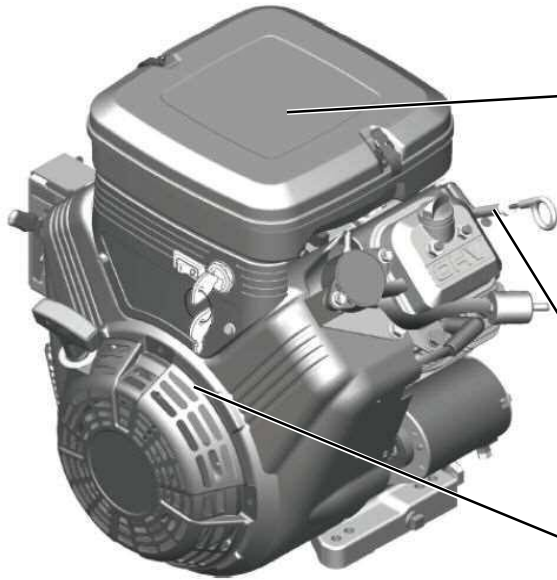
注意

点検・整備は、必ずエンジンを停止、エンジンキーを外してから行ってください。

定期の点検・整備をするには

7. 日常点検

ご使用になる前に、次の点検を行って下さい。



エアクリーナエレメントの汚れ清掃

周囲の安全

異常振動・異常音

燃料、オイル等の漏れ

エンジンオイルの量と汚れ

各部ボルトゆるみ、破損

8. 定期点検

エンジンを常に良好な状態で使うため、次の点検表に従って保守点検を必ず実行してください。

運転時間	8時間 (毎日)	50時間 (毎週)	100時間	250時間	400時間
各部の清掃及び締付点検	● (毎日)				
エンジンオイルの点検・清掃	● (毎日規定最大量まで補給する)				
エンジンオイルの交換	(初回5時間)	(2回目以降 50時間毎※)			
マフラ及びコントロール周辺部の点検	●				
点火プラグの清掃		●			
点火プラグの交換			● (適宜交換)		
プレクリーナの清掃		◎			
エアフィルタの交換			◎ (※200時間毎または、毎月)		
プレクリーナ清掃			◎		
オイルフィルタの交換			◎		
点火プラグ隙間清掃と調整			●		
マフラ及びスパークアレスタの点検			●		
バルブクリアランスの点検 及び必要に応じて調整				●	
燃料フィルタの交換					●
冷却システムの清掃					◎
オイルクーラフィンの清掃					◎

◎埃がひどい状況ではより頻繁に清掃してください。

※上記の交換時間の目安は、粉じんが多い環境下である事を配慮し、エンジンメーカーの推奨時間より早めに設定を致しております。

定期の点検・整備をするには

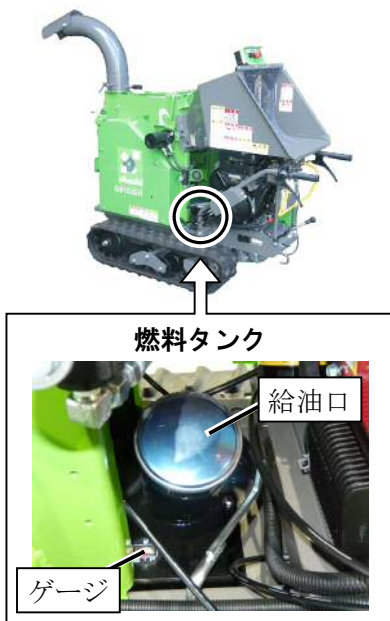
燃料タンク

危険 火気厳禁

警告

1. 燃料の補給はエンジンを停止させ、少なくとも2分間以上冷却した後に行ってください。
2. 屋外か換気のよいところで補給し、規定量以上入れないでください。
3. ガソリンをスパークや炎、パイロットランプ、熱やその他の着火源から離してください。
4. 燃料ホース、タンク、キャップ、並びに関連部品にひび割れや汚れがないか、頻繁に点検してください。必要であれば交換してください。
5. 燃料がこぼれたら、きれいにふき取ってください。

燃料は自動車無鉛ガソリンを使用してください。満タン時で**約15.0リットル**給油できます。
燃料が汚れていたり、古かったり、品質の悪いものを使用しますとエンジンの性能低下や故障に繋がる原因となります。いつも良質できれいな燃料を使用するように心掛けてください。



ドレンプラグ



注意 1

燃料に水やゴミが混ざってしまうと、出力不足になるばかりか燃料システムの各部が故障する恐れがあります。
ドレンプラグを開いて、燃料タンクの底にたまった水やゴミを排出してください。少なくとも1～2リットルは抜いて水やゴミが排出されたことを確認してください。

注意 2

傾斜地走行前は、燃料の残量に注意してください。常に半分以上残量があるようにしてください。
燃料タンクが傾き、タンクの吸い口が露出すると燃料切れの状態になり、エンジンが停止します。

注意 3

機械を30日以上保管する場合には、燃料が劣化します。劣化した燃料は燃料システムや重要なキャブレタ部品中の酸やゴム質の沈着物の原因となる可能性があります。
これを防ぐためにタンク内の燃料に燃料劣化防止剤を添加するか燃料を燃料タンクから抜いてください。『P73長期保管』のページを参考にして処置をしてください。

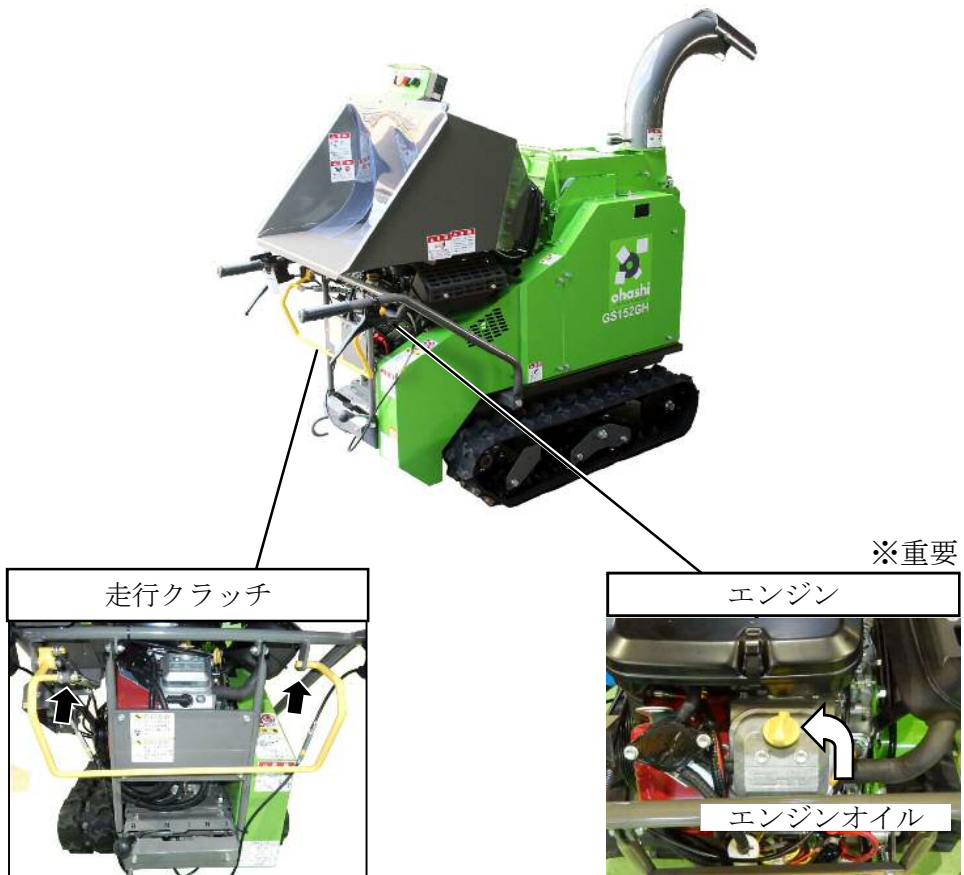
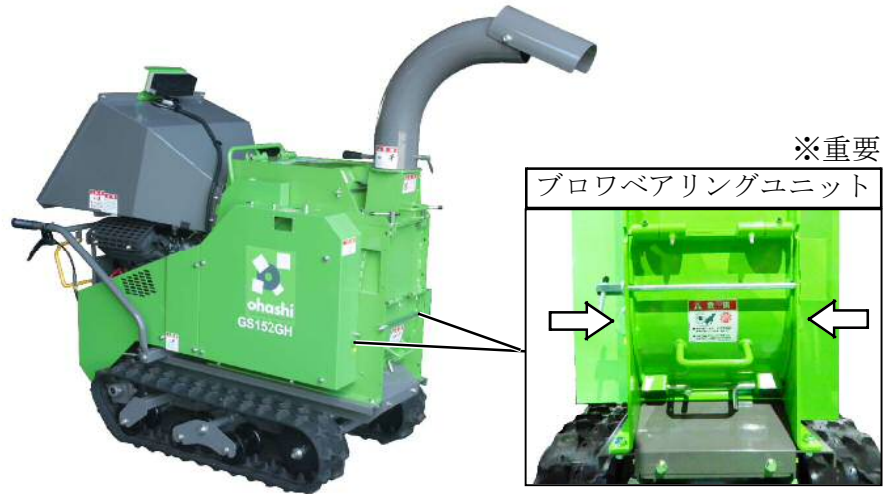
給油・注油するところ

注意 給油や注油を怠ると本機において、不具合や故障の原因となりますので定期的に給油・注油を行なってください。

注油

給脂（グリース）

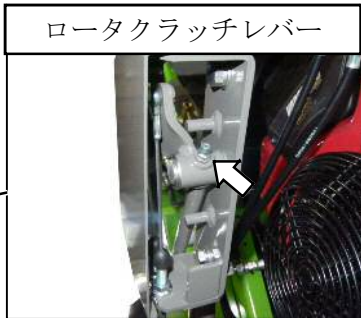
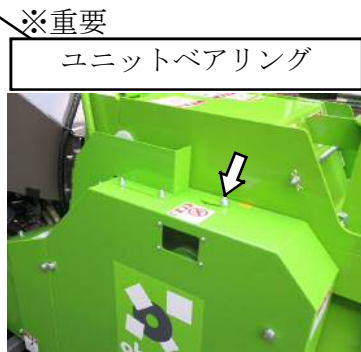
給油



給油・注油するところ

注意 給油や注油を怠ると本機において、不具合や故障の原因となりますので定期的に給油・注油を行なってください。

注油
給油

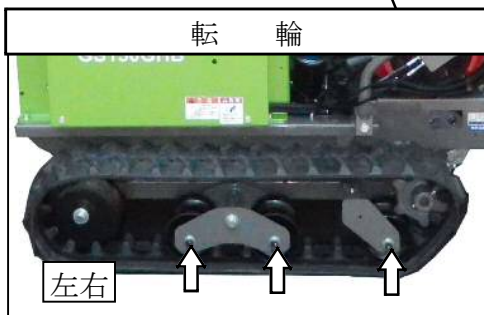


給油・注油するところ

注意 給油や注油を怠ると本機において、不具合や故障の原因となりますので定期的に給油・注油を行なってください。



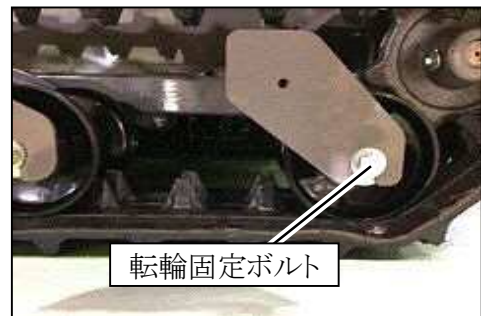
給脂 (グリース)



転輪のグリスアップは、次の要領で3ヶ月に1度の目安で行ってください。

1. 転輪グリスアップのしかた

- (1) 転輪の固定ボルトを取り外してください。



- (2) グリスアップボルトを取り付けてください。



- (3) グリスガンにて、初回5回給脂してください。

※次回以降は3回給脂してください。

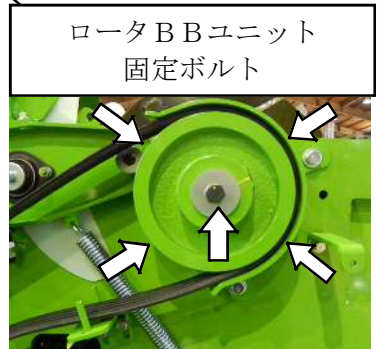
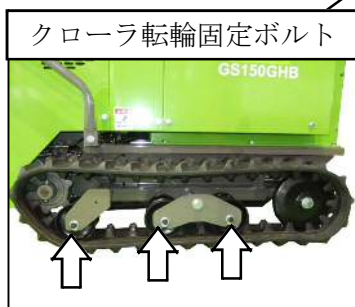
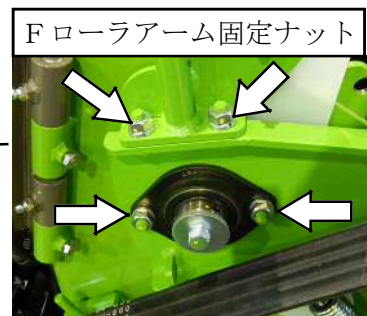
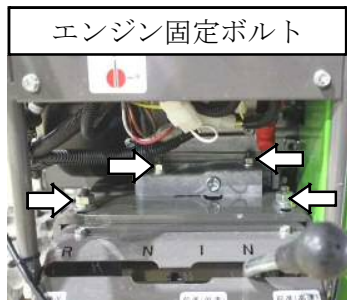
- (4) グリスアップボルトを取り外し、転輪固定ボルトを元の通りに取り付けてください。

- (5) 転輪は、左右で6箇所あります。各箇所(1)～(4)の要領でグリスアップを行ってください。

- (6) 作業終了後、グリスアップボルトは付属工具と一緒に保管してください。

締付するところ

注意	ボルト・ナット部は多少ゆるむことがありますので、使用前に各主要部の締付ボルト・ナットの増し締めを行ってください。
----	--



作業後の手入れ／長期保管

作業後の手入れ

1. 手入れをする前に次の手順で準備作業を行ってください。
 - (1) 走行クラッチレバーを「切」位置にしてください。
 - (2) シフトレバーを「ニュートラル」位置にしてください。
 - (3) ロータクラッチレバーを「切」位置にしてください。
2. 作業を行ったその日の内に、まず水洗いをして機械についたほこり・木屑・泥土等を洗い落してください。

注意 1

ロータハウジング下の電装部品（黒い箱）には、水をかけないように注意してください。

洗浄箇所

- (1) ホップ
- (2) 送りローラ
- (3) ロータハウジング
- (4) クローラ

注意 2

エンジンまわり電装品は水洗いせず、圧縮空気やブラシ・布などでほこり・木屑・泥土等を落としてください。

3. 水洗い後は水分を良く乾燥させて、各回転・しゅう動部に油をたっぷり注油してください。
4. 3. で注油できなかった部分に、同様に油をたっぷり注油してください。

長期保管

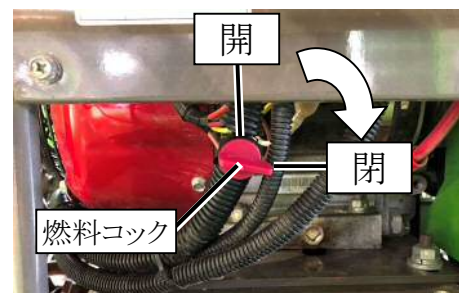
1. 燃料

機械を30日以上保管する場合には、燃料が劣化します。劣化した燃料は燃料システムや重要なキャブレタ部品中の酸やゴム質の沈着物の原因となる可能性があります。これを防ぐために以下の要領でタンク内の燃料に燃料劣化防止剤を添加してください。

燃料劣化防止剤につきましては、『スタビル』ブランド等一般的に販売されているものをご使用ください。



- (1) 給油口のキャップを左にまわして外し、燃料劣化防止剤を入れてください。
- (2) 給油口のキャップを元に戻してください。
- (3) エンジンを5分程度運転し、燃料劣化防止剤がキャブレタに循環するようにしてください。
- (4) エンジンキーをOFFの位置にし、エンジンを停止します。
- (5) 燃料コックを『閉』位置にしてください。



作業後の手入れ／長期保管

燃料劣化防止剤を使用しない場合は、以下の要領で保管時には燃料タンクやキャブレタ等の燃料システムからガソリンを完全に抜いてください。

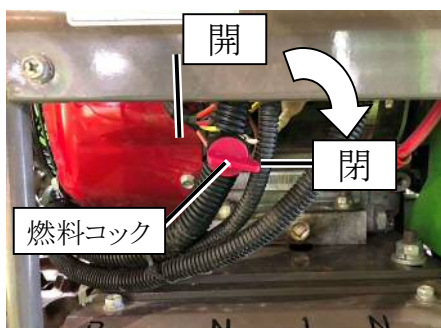
- (1) 給油口のキャップを左にまわして外し、ストレーナカップ内の燃料とゴミを取り除いてください。



- (2) ドレンプラグの下に受皿等を当ててからタンク内の燃料を抜いてください。



- (3) 給油口のキャップを元に戻してください。
- (4) **燃料コックを『閉』位置**にして、エンジンを始動し、燃料が切れてエンジンが停止するまで運転します。



- (5) エンジンキーをOFFの位置にし、エンジンを停止します。



2. 清掃し注油する

- (1) 各部をよく洗った後、機械の全注油、給脂（グリース）箇所、注油・給脂をしてください。
- (2) エンジンオイルは新しいオイルと交換しておいてください。
- (3) エアクリーナは、エレメントを外し清掃後、再度取り付けてください。

3. 格納する

各部を油布で清掃し、カバーをかけてください。格納は湿気、ほこりの少ない所にしてください。屋外に放置する場合は、シートを被せてください。

4. 充電する

1ヶ月に1回程度エンジンをかけて本機を動かし、エンジン・油圧系に潤滑油が行き渡るようにするとともに、補充電をしてください。

作業後の手入れ／長期保管

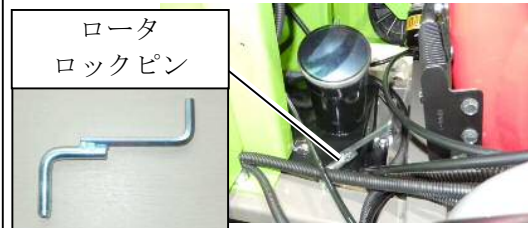
注 意

寒冷地では、使用后必ず本機に付着した泥や異物を取り除いて、コンクリートか固い乾燥した路面、又は角材の上に駐車してください。付着物が凍結して故障の原因となります。

又、凍結して運転不可能になった場合には無理に動かそうとせず凍結箇所をお湯で溶かすか、凍結が溶けるまで待ってください。（無理に動かした場合の事故については責任を負いかねますので特にご注意ください。）



ロータロックピン収納位置



付属工具一覧

機械を使用する前に、付属工具が揃っている事を確認してください。

《付属工具一式 品番・・・14519900000》

NO	工具名	サイズ	数量
1	両口スパナ	8×10	1
2	〃	10×13	1
3	〃	13×17	1
4	〃	17×19	1
5	〃	22×24	1
6	メガネレンチ	17×19	1
7	T型ハンドル	3/8	1
8	六角棒スパナ	3mm	1
9	〃	4mm	1
10	〃	5mm	1
11	〃	6mm	1
12	〃	8mm	1
13	プラグレンチ	16mm	1
14	プラスドライバー	NO. 2	1
15	プライヤー	150mm	1

《その他工具・付属品》

品番	工具名・付属品名	数量
12006570001	ロータロックピン (六角レンチ付)	1
B9800150030	スケールセット	1
-	シールテープ	1
14502600801	グリスアップボルト (ニップル付き)	1

消耗部品一覧表

品名	品番	数/台	交換目安時間 備考
作業機関係			
チッパナイフセット	14506220000S	1	片面25時間
チッパナイフ (単品)	11106220000	2	片面25時間
受刃セット	14506320000	1	片面75時間
シュレッターナイフ	11106250000	8	1角50時間
ロータベルト	A813V040800	1	適宜交換 4R-3V-800
走行ベルト	A81SA010038	1	適宜交換 SA-38
パワーバックベルト	A81SB010043	1	適宜交換 SB-43
ブロワベルト	A81SA010041	2	適宜交換 SA-41
ロータベアリングユニット	A7020X08000	2	500時間
送りローラ ベアリングユニット	A7055205000	1	1000時間
ブロワベアリングユニット	A7030C20400	2	500時間
ブロワフィン	14516450000	2	300時間
角バネ	12026640000	1	適宜交換
エンジン関係			
エアフィルタ	692519	1	200時間毎
エアクリーナプレクリーナ	692520	1	200時間毎
燃料フィルタ	691035	1	400時間毎
エンジンオイルフィルタ	842921	1	100時間毎もしくは 1年毎のいずれか早い方
スパークプラグ	491055S	2	100時間毎 チャンピオン製XC92YC
油圧関係			
油圧ホース (上)	14503510000	1	2年毎に交換
油圧ホース (下)	11123520000	1	2年毎に交換
油圧ホース (ダイヤル)	21123750000	2	2年毎に交換 (※)
バッテリー・電気関係			
バッテリー	14509610000	1	2年毎に交換 34A19RT
ヒューズA	A9905212510	1	全体 (10A)
ヒューズB	A9905212501	1	ハルブコントロール基盤 (1A)

◎ (※) オプション取り付け時

◎ オイルは、P47『オイル交換』の項をご覧ください。

◎ 部品の交換時期の目安は、使用頻度や使用環境などにより異なります。なお、この期間はあくまでも目安であり、この期間内に故障しないことをお約束するものではありません。
また、長時間連続使用など、ご使用状態によってはこの目安の期間よりも早期に部品交換が必要となる場合があります。

◎ チッパナイフの研磨のご用命は、販売店へお問い合わせください。

こんなトラブルが起ったら

エンジンを止めてから点検してください

	こんな確認をして	こう処置する
エンジンがかからない	セルモータが回らず、エンジンがかからない時 ①エンジン非常停止スイッチが押されていないか確認する。(右に回すと解除します) ②ロータカバーとブロワカバーが閉まっている事、セフティスイッチが押されていることを確認する。 ③バッテリー上がりをしていないか確認する。	①エンジン非常停止スイッチを右に回し、解除する ②ロータカバーとブロワカバーを閉める。セフティスイッチ調整を行う ③バッテリー点検、補充電、交換をする
	(2) 燃料が切れていないか	燃料の補給をする
	(3) 燃料が燃焼室に吸込まれているか	キャブレタを清掃する 燃料フィルタを交換する
	(4) エンジンの始動手順が間違っていないか	正しい始動手順でエンジンをかける
	(5) 燃料に水が入っていないか	燃料タンクに水が溜まっていればドレンプラグを開いて底にたまった水を排出する キャブレタや燃料フィルタを外して水抜きする
	(6) 長期保管時の古い燃料が残っていないか	燃料タンク・燃料フィルタ・キャブレタ内の燃料を抜き、新しい燃料と交換する。特にキャブレタは、メインジェットのアゲが詰まるので念入りに掃除をする
	(7) 点火プラグが悪くなっているか	点火プラグを外し、濡れていれば、火であぶるか、乾いた布などで良く乾燥させる。 点火プラグの火花間隔(0.6~0.7mm)を調整し、それでもかからない場合は新しい点火プラグと交換する 《注意》 交換や調整後は、点火プラグを元の位置に締付け、プラグキャップを確実に差し込むこと
エンジンの力が弱い	(1) エアクリーナにゴミがたまっていないか	エアクリーナエレメントのゴミを除去し、きれいに清掃する
	(2) ブロワハウジングの吸気口にゴミがたまっていないか	ゴミを除去し、きれいに清掃する
	(3) エンジンオイルが不足していないか	エンジンオイルを補給する。また、オイルが古くなっている場合、新しいオイルと交換する
	(4) エンジンの回転は上がるか	スロットルレバーの遊びを減らす。スロットルワイヤのズレを直す
	(5) エンジンの圧縮はあるか	点火プラグ及びシリンダヘッドボルトを締め付ける ピストンリング等の磨耗も考えられるので購入先に相談する
材料が噛みこんでエンジンが停止したとき		エンジンキースイッチを『OFF』位置にし、噛み込んだロータを解除してください(P44~参照)

こんなトラブルが起ったら

エンジンを止めてから点検してください

	こんな確認をして	こう処置する
各部に振動が多いとき	(1) エンジンが振れていないか	エンジン取付ボルトを強く締め直す
	(2) チップナイフが外れていないか 取付ボルトが外れたり緩んでいないか	チップナイフを正しく付け直す 取付ボルトを強く締め直す (締めトルク 110 N・m)
	(3) ロータハウジングが振れていないか	ロータハウジング取付ボルトを強く締め直す
	(4) ロータ軸受けが破損していないか	ロータ軸受けを交換する

送り制御チェック項目一覧

-送りローラが回転しない-

<正転しない時>

	箇所	原因	処置	チェック	備考
1	エンジン回転	低い	スロットルレバーを[高]にまわす		
2	エンジン回転	低い(スロットルワイヤのズレ)	スロットルワイヤのズレをなおす		
3	送りスイッチ(前方)	故障している	送りSWを交換する		
4	配線コード	断線している	配線コードを結線する		コントロールBOX-電磁弁
5	電磁弁	故障している	電磁弁を交換する		
6	コントロール基板	故障している	コントロール基板を交換する		コントロールBOX内

<逆転しない時>

	箇所	原因	処置	チェック	備考
1	送りスイッチ(後方)	故障している	送りスイッチを交換する		
2	配線コード	断線している	配線コードを結線する		コントロールBOX-電磁弁
3	電磁弁(パワーパック)	故障している	電磁弁を交換する		

<どちらも動かない時>

	箇所	原因	処置	チェック	備考
1	パワーパックベルト	切れている	パワーパックベルトを交換する		
2	パワーパックベルト張り	緩んでいる	パワーパックベルトを張り直す		
3	パワーパック油量	不足している	作動油を補給する		
4	パワーパックのアース	アース不良	塗装・サビの除去		
5	送りローラ	物が引っかかっている	引っかかっている物を除去する		
6	配線コード	断線している	配線コードを結線する		
7	送り速度調整ダイヤル	「遅」になっている	送り速度調整ダイヤルを「速」にする		流量調整弁 GB/OP時

<自動制御が効かない(材料は送り込むが、自動停止せずエンジンが止まる)>

	箇所	原因	処置	チェック	備考
1	ヒューズ(1A)	切れている	ヒューズ(1A)を交換する		
2	配線コード	断線している	配線コードを結線する		キーSW-基板
3	コントロール基板	故障している	コントロール基板を交換する		

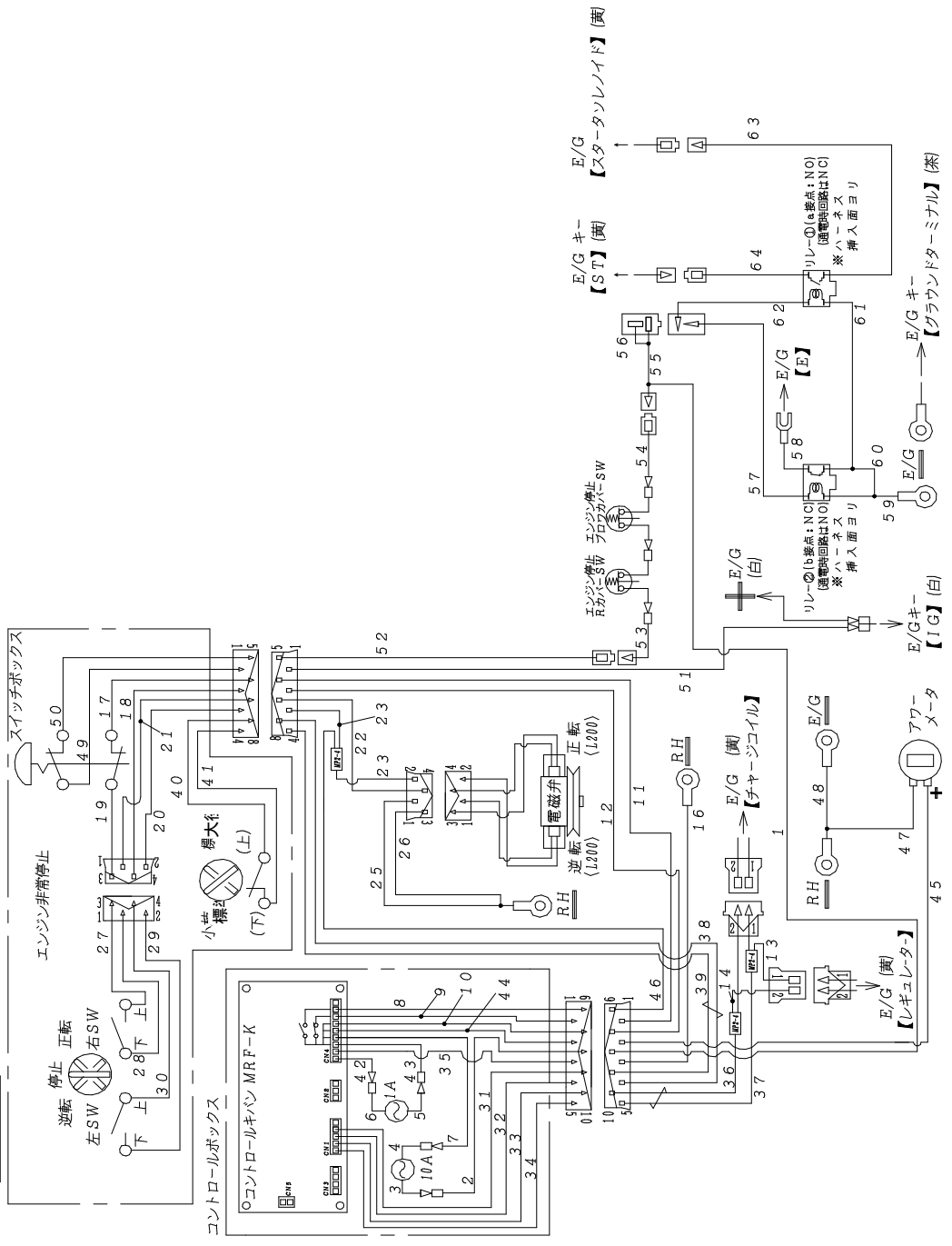
<標準モードは正常だが、大径モードで正送りしない>

	箇所	原因	処置	チェック	備考
1	エンジン回転	低い	スロットルレバーを「高」に回す		
2	コントロール基板				

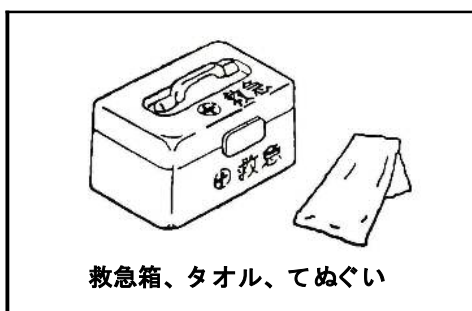
配線図

2020.03.02

配線図 GS151GH : 14515000000



万一の事故に備えて



●作業の前に

・ 万一の事故に備え、電話機もそばの目につきやすい場所に、医療機関、消防署（救急車）の電話番号を明確にしておいてください。特に消防署への連絡の場合、救急車のための目標地点（住所、目標となる建造物など）も明確にしておくこと、的確な連絡に役立ちます。

・ 作業する場合、どこで作業を行っているかが他の人にもわかるような方法（黒板に作業現場をメモするなど）を講じてください。負傷し動けなくなり帰れない場合の対処として有効です。

・ 作業現場には、呼子（笛）を持って行ってください。

●発火に対する備え



危険

万一、エンジンから、発火または発煙したら、ただちに、機械を停止させ、スイッチをOFF位置にして、まず消火すること。この場合、自分の身体の防御にも充分注意すること。

・ エンジンから発火または排気口以外から発煙した場合、まず、機械を停止させ、スイッチをOFF位置にし、消火してください。

・ 自分の身体を、火災その他の傷害から守るよう注意してください。

・ 草、木などに類焼しないよう注意してください。

・ スコップで砂などをかけるか、または油火災用の消火器で消火してください。

●ケガへの備え

・ 万一のケガへの備えとして、救急用品としては、応急手当用品の入った救急箱を用意してください。

出血をともなうケガについては、止血用に汗ふき用のタオルや、てぬぐいなども有効ですので、常時余分に作業現場へ携帯することをおすすめします。

● 応急手当

・ 応急手当については、地域の消防署や消防組織（消防団など）で知識、技能の普及につとめていますので、それらの講習、訓練を受け、基本的な知識を習得されることをおすすめします。

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは、下記の点を明確にして、お買い求め先へお問合わせください。

●ご使用機の型式名と機体番号は？購入年月日は？

型 式 GS152GH
機体番号 _____
購入年月日 年 月 日

●ご使用状況は……？

(どんな作業のとき等)

●トラブルが発生したときの状況を、できるだけ詳しくお教え下さい。

●ご不明なことやお気づきのことがございましたら、販売店にご相談下さい。

販売店

担当者

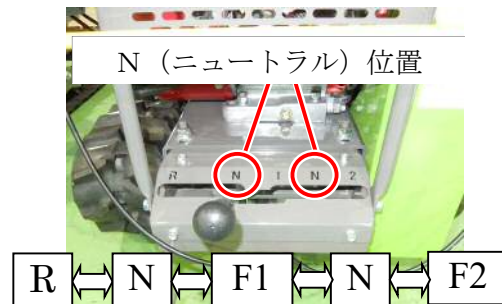
T E L ()

GS152GH 使用手順書

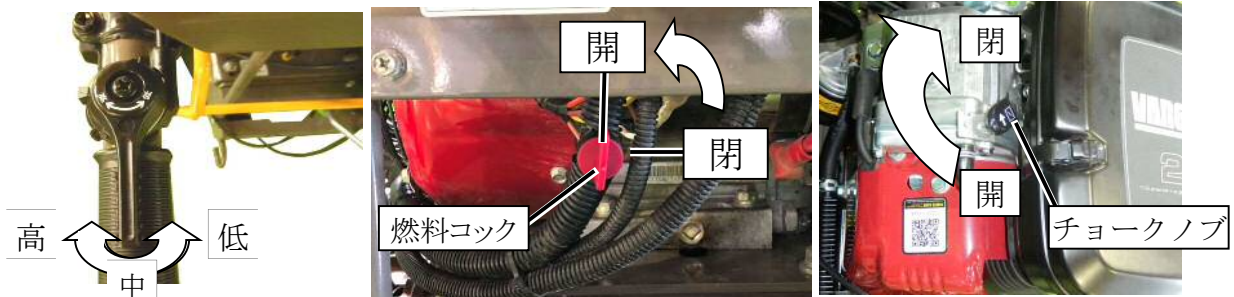
- ① 走行クラッチレバーを「切」位置にします。(駐車ブレーキも同時に入ります。)



- ② シフトレバーを「N」の位置にします。



- ③ スロットルレバーを「中」位置にし、燃料コックを「開」位置、チョークノブを「閉」方向にします。



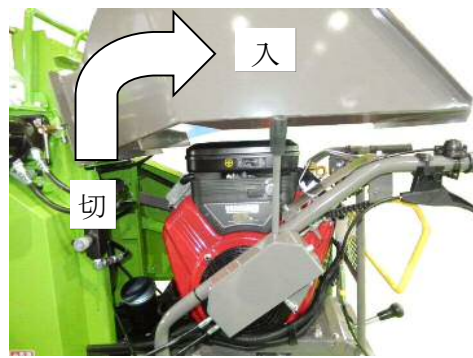
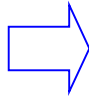
- ④ キースイッチを「ON」方向に回しエンジンをかけます。チョークノブを「開」方向に徐々に戻してください。



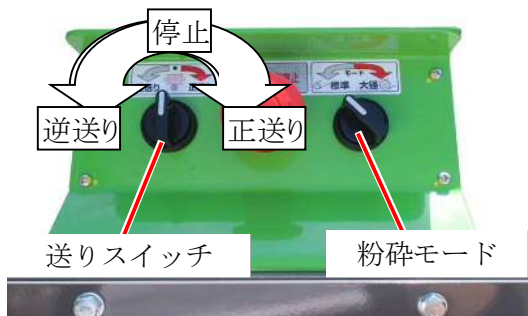
- ⑤ スロットルレバーを徐々に「高」位置にします。(フルスロットルにします)



⑥ ロータークラッチレバーを「切」からゆっくりと5秒ほどかけて「入」方向へ上げます。



⑦ 送りスイッチを「正送り」へすると、粉碎作業が出来ます。



※材料に応じて粉碎モードを選択してください。

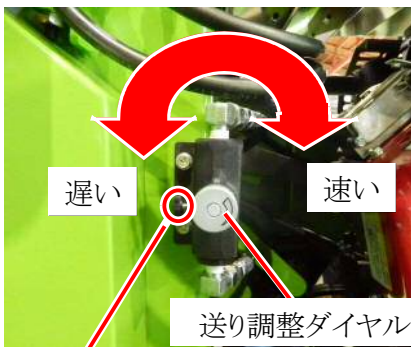
○100mm未満は『標準モード』

○100mm以上、または硬い材料は『大径モード』

⑧ 作業が終わりましたら、⑦送りスイッチ「停止」→⑤スロットルレバー「低」位置 → ⑥ロータークラッチレバー「切」の順で、始めの位置に戻し終了してください。

スクリーン 5mm ~ 8mm 利用時の送り速度調整ダイヤルの仕方

※オプションで送り速度調整ダイヤルを取り付けた場合の操作です。



ダイヤルロックピン

※5mm・8mm スクリーンをつけた場合のダイヤル調整方法は、送り調整ダイヤルを左方向(遅く)へ全部回し、投入口に直径7cm前後の竹や木を投入し、下記の要領で行ってください。

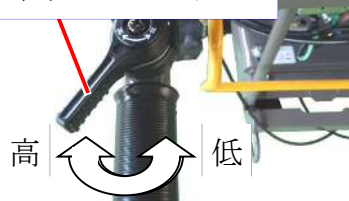
5mm・・・右方向(速い)へ回していき、竹や木が入りだすところから更に1回転させてダイヤルロックピンで固定します。

6mm・・・右方向(速い)へ回していき、竹や木が入りだすところから更に1回転半させてダイヤルロックピンで固定します。

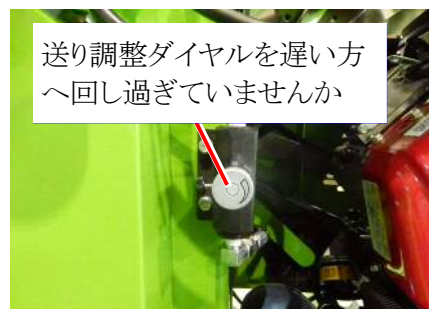
8mm・・・右方向(速い)へ回していき、竹や木が入りだすところから更に2回転させてダイヤルロックピンで固定します。

※送りローラが回らないときは、下記に注意してください。

スロットルレバーが「高」位置にありますか



送り調整ダイヤルを遅い方へ回し過ぎていませんか



始業点検表

型式

GS152GH

機体番号

お客様名	フリガナ
------	------

販売店	
-----	--

	点検項目	日付	/	/	/	/	/	/	/	/	/
1	エアクリーナの清掃・点検 ※1参照										
2	エンジンオイルの量・汚れ OIL002 (SF級以上) ※2参照										
3	作動油の量・汚れ OIL001 (ISO VG46相当粘度)										
4	チップナイフの欠け・磨耗 1450622000S										
5	受刃の欠け・磨耗 14506320000										
6	シュレッダナイフの欠け・磨耗 1110625000S										
7	ナイフ、受刃ボルトの増締め ※4										
8	各部のグリースアップ (グリースはリチウム系)										
9	各部への給油・注油										
10	エンジン、クローラの清掃										
11	ベルトの磨耗、亀裂 ※5 参照										
12	使用時間合計		H	H	H	H	H	H	H	H	H

- ※1 エアフィルタ(品番:692519) プレクリーナ(品番:692520)
- ※2 エンジンオイルは初回5時間、以降50時間毎に交換してください。オイルフィルタ(品番:842921)は初回のオイル交換ではオイルフィルタの交換は推奨しておりません。2回目以降のオイル交換の際に100時間毎に交換してください。
- ※3 ミッションオイル #80 ※4 チップナイフ・受刃の固定ボルトは締付トルク110N・mで締付を行ってください。
- ※5 走行ベルト(SA-38)品番:A81SA010038 パワーパックベルト(SB-43)品番:A81SB010043
 ロータベルト(4R3V-800)品番:A813V040800 ブロワベルト(SA-41)品番:A81SA010041

株式会社 大 橋

佐賀県神埼市千代田町崎村401

TEL : 0952-44-3135

FAX : 0952-44-3137

E-mail : eco@ohashi-inc.com

[http : //www.ohashi-inc.com/](http://www.ohashi-inc.com/)